

会 告 目 次

第47回全国大会奨励賞の表彰	2
シンポジウム等の開催日・会場変更のお知らせ	3
正会員新入会の特別キャンペーンの実施について	4
平成6年度第36回通常総会の開催について	4
平成6年度各種行事の予定について	5
研究発表会開催通知	6
第76回記号処理研究会	} 合同研究会
第17回プログラミング・言語・基礎・実践研究会	
第98回計算機アーキテクチャ研究会	
第51回ハイパフォーマンスコンピューティング研究会	
第94回人工知能研究会	
第5回オーディオビジュアル複合情報処理研究会	8
第71回設計自動化研究会	8
手書き数字データベースCD-ROM配布について郵政省からのお知らせ	10
情報処理学会第49回全国大会実施要領	11
本会協賛等の行事案内	16
情報処理学会第49回全国大会講演申込書	17
情報処理学会第49回全国大会講演参加費送金連絡票	18
夏のプログラミングシンポジウムのお知らせ	19
「グループウェア'94」シンポジウムのお知らせ及び論文募集	20
情報処理学会「行事」・「書籍」申込書	21
「画像の認識・理解シンポジウム(MIRU'94)」開催について	22
第6回「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集	26
First Call for Papers ASP-DAC'95 CHDL'95 VLSI'95	27
第13回世界コンピュータ会議出席のおすすめ	28
超並列アーキテクチャ, アルゴリズム, およびネットワークに関する国際シンポジウム論文募集	30
支部だより	31
教 官 募 集	32
雑 報	33
会 議 案 内	34
平成6年電気・情報関連学会連合大会の開催予告	35
学会事務局(本部)の移転について	36
機関誌原稿執筆案内等の改訂について	37
本会名を使った勧誘にご注意ください	37
編 集 室	38
会費・購読費の預金口座自動振替をぜひご利用ください	39
預金口座振替依頼書	40

第47回 全国大会奨励賞の表彰

第47回全国大会奨励賞は、去る3月23日～25日に東京理科大学理工学部で開催された第48回全国大会の席上、会長から下記13人に授与されました。

本賞は昨年10月開催の第47回全国大会（於鳥取大学）の発表論文を対象に、奨励賞委員会（委員長 平栗副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数1007件中推薦のあった59名の候補者の中から25名を選び、さらに慎重審議の結果、13名が受賞候補者として推薦され、第383回理事会（平成6年1月）の承認を得て決定されたものです。

ポータブルKLI処理系KLICの概要 (3D-7)

仲瀬 明彦君（正会員）

1961年生。1984年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。1986年同大学院理工学研究科修士課程修了。同年、㈱東芝入社。同社研究開発センターにて知識ベースマシン、並列推論マシンの研究に従事。1993年（財）新世代コンピュータ技術開発機構に出向。現在、同機構にて並列言語処理系の研究に従事。電子情報通信学会会員。

ゲートサイジングによる回路の最適化 (1H-10)

田宮 豊君（正会員）

1965年生。1988年東京大学精密機械工学科卒業。1990年同大学院精密機械工学科修士課程修了。同年、㈱富士通研究所入社。半導体設計におけるレイアウトCADと論理合成CADに興味を持つ。現在、CAD研究部に所属。

仮想ストライピングを用いたRAID5型ディスクアレイのストライプ管理方式 (7H-6)

茂木 和彦君（学生会員）

1969年生。1992年東京大学工学部電気工学科卒業。現在、同大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程在学中。ディスクアレイの研究に従事。

プログラム依存表現に基づく統合的ソフトウェア開発支援環境について (1J-5)

乃村 能成君（学生会員）

1969年生。1993年九州大学工学部電子工学科卒業。現在、同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程在学中。プログラム依存解析の研究に従事。

ペトリネットを用いたオンラインヘルプシステム作成支援 (6J-8)

平原 厚志君（学生会員）

1969年生。1992年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。1994年同大学理工学研究科修了。

複数の背景色中を運動する物体のカラー多重化画像を用いた大きさと速さの抽出 (6L-6)

柳沼 良知君（正会員）

1965年生。1988年東京大学工学部計数工学科卒業。1990年同大学院理学部物理学科修士課程修了。同年、同大学生産技術研究所技官。1993年同研究所助手。データ構造、マルチメディアデータベース、データベース取得などの研究に従事。

自然語インタフェースにおける複数システムの構成に応じた意味解析 (4M-2)

難波 康晴君（正会員）

1965年生。1989年東京大学工学部計数工学科卒業。同年、㈱日立製作所入社。現在、同社システム開発研究所関西システムラボラトリにおいて、自然言語処理の研究に従事。

対話的制約充足手法による制約プログラムの実現 (3N-1)

石井 恵君（正会員）

1966年生。1989年慶応義塾大学理工学部数理科学科卒業。同年、日本電信電話㈱入社。現在NTT 情報通信網研究所所属。知識処理技術の研究に従事。1992年度人工知能学会全国大会優秀論文賞受賞。人工知能学会会員

優性の概念を用いた遺伝アルゴリズムに関する一考察 (6N-6)

吉田 由起子君 (正会員)

1966年生。1990年東京工業大学理学部応用物理学学科卒業。1992年同大学院理工学研究科応用物理学専攻修士課程修了。同年、(株)富士通研究所入社。現在、同社情報社会科学研究所にて集団進化型問題解決システムの研究に従事。

音源分離システムにおける音モデルの自動獲得に関する検討

II: ボトムアップ処理と音モデルに基づく処理と協調 (1R-10)

柏野 邦夫君 (正会員)

1967年生。1990年東京大学工学部電子工学科卒業。1992年同大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了。現在、同大学院博士課程在学中。音響的情報を対象とする信号処理および知識処理に興味を持つ。

遺伝的アルゴリズム(GA)による関数最適化の一手法 (4T-6)

太瀬 哲也君 (正会員)

1967年生。1990年筑波大学第3学群情報学類卒業。1992年同大学院修士課程理工学研究科修了。同年、日本電気(株)に入社。以来、遺伝的アルゴリズム、並列処理システムの研究に従事。現在、同社C & C研究所コンピュータシステム研究部所属。

デフォルメ地図作成システムの開発 (3V-3)

梶田 健史君 (正会員)

1965年生。1989年岐阜大学工学部電子工学科卒業。1992年同大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年、(株)沖テクノシステムズラボラトリ入社。現在、同社にて画像処理、地理情報システムの研究に従事。

字面解析による助詞「が」の抽出 (1W-10)

菅沼 明君 (正会員)

1961年生。1986年九州大学工学部情報工学科卒業。1988年同大学院工学研究科修士課程修了。1991年同大学院工学研究科博士後期課程修了。同年、同大学工学部情報工学科助手。1993年同大学工学部情報工学科講師。現在に至る。日本語処理、ユーザインタフェースなどの研究に従事。日本ソフトウェア科学会会員

**シンポジウム等の開催日・会場変更のお知らせ**

都合によりシンポジウム等の開催日・会場が下記のとおり変更になりましたので、お知らせいたします。

記**ソフトウェアプロセス・シンポジウム」**

平成6年5月26日(木) 工学院大学3階312教室 → 11階第5会議室に変更

5月27日(金) 工学院大学3階312教室(変更なし)

連続セミナー94」

〔第1回〕平成6年5月12日(木) 工学院大学3階312教室 → 機械振興会館B2ホール(東京都港区芝公園)に変更

〔第2回〕7月14日(木) → 13日(水)に変更

〔第4回〕11月17日(木) → 16日(水)に変更

研究発表会開催通知

(平成6年 5月15日～6月30日)

研究会名	日時		会場	詳細
情報学基礎	5月18日(水)	10:00～17:00	機械振興会館	前号 5頁
コンピュータビジョン	5月19日(木)	13:20～17:00	静岡大	6頁
システムソフトウェアとオペレーティング・システム マルチメディア通信と分散処理	5月19日(木) 5月20日(金)	9:00～17:20 9:00～18:00	鹿児島大	6頁
音声言語情報処理	5月20日(金)	10:00～17:00	情報処理学会(新宿)	7頁
グラフィクスとCAD	5月20日(金)	11:20～17:20	工学院大	8頁
情報システム	5月20日(金) 5月21日(土)	13:30～17:00 9:30～15:40	西南学院大	8頁
ソフトウェア工学	5月25日(水)	9:30～18:00	工学院大	9頁
データベースシステム	5月27日(金)	10:00～17:15	情報大	9頁
人文科学とコンピュータ	5月27日(金)	10:00～17:00	諏訪市博物館	10頁
コンピュータと教育	5月27日(金)	13:30～17:30	情報処理学会(新宿)	10頁
自然言語処理	5月27日(金) 5月28日(土)	9:40～16:40 9:40～15:20	東工大	10頁
音楽情報科学	5月28日(土)	14:00～16:30	京都ドイツ文化センター	11頁
記号処理 プログラミング-言語・基礎・実践-	6月3日(金)	11:00～16:45	工学院大	本号 6頁
計算機アーキテクチャ	6月13日(月)	10:30～17:00	三洋電機	7頁
ハイパフォーマンスコンピューティング	6月17日(金)	13:00～17:30	慶大(理工)	7頁
人工知能	6月20日(月)	14:00～16:30	工学院大	8頁
オーディオビジュアル複合情報処理	6月24日(金)	9:30～12:00	早大(理工)	8頁
設計自動化	6月24日(金)	10:00～17:30	工学院大	8頁

◆第76回 記号処理研究会

◆第17回 プログラミング-言語・基礎・実践-研究会 } 合同研究会

(発表件数:6件)

SYM (主査:小川貴英, 幹事:天海良治, 寺田 実, 湯浦克彦)

PRG (主査:萩谷昌己, 幹事:大堀 淳, 柴山悦哉, 松岡 聡)

日時 平成6年6月3日(金)11:00～16:45

会場 工学院大学 28階 第4会議室

[東京都新宿区西新宿 1-24-2, JR:新宿(西口)下車, 徒歩約10分. Tel. (03)3342-1211]

議題

- 11:00-12:30 -

(1) 複数のページ記述言語(PDL)に対応する処理系の実現

森田雅夫, 小野沢雄二, 堀 素史, 伊知地宏, 東方聖朝(富士ゼロックス)

(2) 拡張1パス型属性文法を基にしたコンパイラ生成系の実現

大木康幸 (日立), 中川裕之 (キャノンソフトウェア), 平見知久, 山下義行, 中田育男 (筑波大)
- 13:30-16:45 -

- (3) Partial Marking and Conditionally Invoked GC
田中良夫 (慶大), 松井祥悟 (神奈川大), 前田敦司, 中西正和 (慶大)
- (4) Linear Logicと島内剛一氏のProver CLC
辰己丈夫 (早大)
- (5) オブジェクトベース機構: オブジェクト指向一貫性モデリング過程論に基づくシミュレーションの実現
畠山正行, 金子 勇 (茨城大)
- (6) オブジェクト指向データベースにおけるC++ プログラム情報の表現と蓄積
小野寺民也 (日本IBM)

◆第98回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 島田俊夫, 幹事: 木村康則, 関口智嗣, 中島 浩)

日 時 平成6年6月13日 (月) 10:30~17:00

会 場 三洋電機 マーケティングプラザビル 4階 第8会議室

[東京都文京区本郷 3-10-15, JRまたは管団地下鉄: 御茶の水下車, 徒歩約10分. Tel. (03)5803-3564 (清水)]

議 題

- 10:30-12:00 -

- (1) スーパースカラパイプラインによるブロック並列実行方式
朝生良教, 柳瀬正俊, 桐山佳隆, 林 達也 (名工大)
- (2) 多様なプログラムに適応するVLIWマシンの開発
遠藤浩太郎, 境 隆二, 鈴木慎一郎, 竹内陽一郎, 野崎正治, 石川 禎, 森 良哉 (東芝)
- (3) 並列計算機EM-4におけるループ間Doacross方式の自動最適化
山名早人, 佐藤三久, 児玉祐悦, 坂根広史 (電総研), 坂井修一 (RWCP), 山口喜教 (電総研)

- 13:00-17:00 -

- (4) FPGAを利用した教育用マイクロプロセッサKITE-2 - システムソフトウェア教育への対応 -
末吉敏則, 小羽田哲宏, 野崎貴弘, 田中康一郎, 久我守宏 (九工大)
- (5) ビジネス向けマルチプロセッササーバに適したキャッシュ一致保証方式の設計と評価
森岡道雄, 中三川哲明, 黒澤憲一 (日立)
- (6) トレース駆動型シミュレーションによる共有バス結合型MPの拡張方式の評価
高橋正人, 前田慎司, 宮田裕行, 菅 隆志 (三菱電機)
- (7) プロセス間のアクセス競合を低減する並列2次記憶システムの構想
大上靖弘, 北村 徹, 大西一正, 清水雅久 (RWCP)
- (8) A High Speed Register Insertion Bus Multicomputer Interconnection Network
Andrew C. Flavell, Yoshizo Takahashi (Univ. of Tokushima)
- (9) 見学: 三洋電機 東京情報通信研究所 (16:00~17:00)

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

◆第51回 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 野寺 隆, 幹事: 佐藤三久, 寒川 光, 長嶋雲兵)

日 時 平成6年6月17日 (金) 13:00~17:30

会 場 慶應義塾大学 日吉メディアセンター (旧図書館) AVホール

[横浜市港北区日吉4-1-1, 東急東横線: 日吉下車, 徒歩2分. Tel. (045)563-1111]

議 題

- (1) オブジェクトベース機構に基づく数値シミュレーション
畠山正行, 金子 勇 (茨城大)
- (2) オブジェクト指向に基づく偏微分方程式の数値シミュレーション
畠山正行, 横澤謙二 (茨城大)
- (3) オブジェクトベース・シミュレーションのGUI 実行支援環境
畠山正行, 上原 均, 金子 勇 (茨城大)
- (4) ノイマン展開法前処理によるCGアルゴリズム
鈴木信太郎, 石黒美佐子 (茨城大)
- (5) 直接法における下三角疎行列の並列解法について
川北淳平 (慶大)
- (6) 主記憶共有型スーパーコンピュータの性能評価
濱口信行 (日立)

◆第94回 人工知能研究会

(発表件数:3件)

(主査:中島秀之,幹事:加藤 浩,沼尾正行,橋田浩一)

日 時 平成6年6月20日(月)14:00~16:30
会 場 工学院大学 11階 第8会議室(所在地は前記参照)
議 題

- (1) 逆導出原理と遺伝的アルゴリズムを用いた概念獲得手法GA-CIGOL
山本公洋, 鈴木英明, 内藤昭三, 伊藤正樹 (NTT)
- (2) 分業巡回セールスマン問題のニューラルネットワークによる解法 中村友洋, 角田達彦, 田中英彦 (東大)
- (3) 競合的な局所基底ニューラルネットワークへの規則の埋め込みと精密化 岡 夏樹, 金道敏樹 (松下技研)

◆第5回 オーディオビジュアル複合情報処理研究会

(発表件数:5件)

(主査:富永英義,幹事:二宮佑一,村上仁己,安田 浩)

日 時 平成6年6月24日(金)9:30~12:00
会 場 早稲田大学 理工学部 55号館 N棟 1階 大会議室
[東京都新宿区大久保 3-4-1, JRまたは有楽町線:高田馬場下車, 徒歩10分. Tel. (03)3209-3211 (ext. 3419)]
議 題 テーマ:MPEG2 符号化を振り替える.

- (1) MPEG2 の標準化動向 渡辺 裕 (NTT)
- (2) インタレース動画像の高効率動き補償方式 SYMC 中島康之 (KDD)
- (3) インタレース対応動き補償予測方式 "Dual-prime" 尾高敏則, 山影朋夫, 山口 昇 (東芝)
- (4) インタレース画像における動き補償方式 -FAMCとDual' の検討- 井上修二, 行武 剛 (松下通信工業)
- (5) MPEG2 量子化と符号化機構とIDCTミスマッチ対策

片山泰男 (グラフィクス・コミュニケーション・ラボラトリーズ)

*電子情報通信学会(画像工学研究会), IEEE東京支部(BTグループ)協賛

◆第71回 設計自動化研究会

(発表件数:9件)

(主査:中村行宏,幹事:小川 泰,松田庸雄,安浦寛人)

日 時 平成6年6月24日(金)10:00~17:30
会 場 工学院大学 11階 第8会議室(所在地は前記参照)
議 題

- 10:00-12:00 -

- (1) 3層チャンネルレスSOG のための高速配線手法 山崎一弘, 高橋一浩, 寺井正幸 (三菱電機)
- (2) 配線プログラムに適した新データ構造の評価 小島直仁 (東芝)
- (3) セルベースレイアウトのための性能ドリブン概略配線手法
藤井隆志 (NEC), Tianxion Xue, Ernest S. Kuh (カリフォルニア大バークレー校)

- 13:00-17:30 -

- (4) 状態遷移回路の低消費電力化のための状態割当法 秋田純一, 浅田邦博 (東大)
- (5) RTマクロを用いた複合データパス設計手法 今橋正彦, 中村 猛, 大井 康, 白石 豪, 平沢政男 (NEC)
- (6) UDL/I 第2期ソフトウェア開発 -合成系ソフトウェアの開発- 遠藤 真 (NTT)
- (7) UDL/I 第2期ソフトウェア開発 -合成系ソフトウェアのテスト-
神原弘之, 横田吏司 (ASTEM), 遠藤 真 (NTT)
- (8) ブロック図によるHDL 設計環境 野地 保, 浜田英幸, 水本勝也, 高坂広之, 青木 洋 (三菱電機)
- (9) アルゴリズムデバッグ法を用いたVLSI上位仕様記述の検証法 長沼次郎, 小倉 武, 星野民夫 (NTT)

~~~~~

◆グラフィクスとCAD研究会

研究発表会日程変更のお知らせ

・10月研究発表会 10月14日(金)に日程変更いたしました(於:電総研)

- ◆人工知能研究会
- ◆計算機アーキテクチャ研究会
- ◆システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会
- ◆ハイパフォーマンスコンピューティング研究会
- ◆プログラミング—言語・基礎・実践—研究会

# 1994年並列／分散／協調処理に関する「琉球」サマー・ワークショップ (SWoPP 琉球'94)

## 参 加 募 集

上記5研究会は、「1994年並列／分散／協調処理に関する「琉球」サマー・ワークショップ (SWoPP 琉球'94)」と題し、並列／分散／協調処理を横断的なキーワードとして、研究会を同時・連続開催いたします。プログラムは会誌6月号に掲載いたしますが、参加申込の方法をご案内します。多数の方々のご参加をお待ちしています。

日 程 平成6年7月21日(木) 人工知能研究会 (AI)  
 21日(木)・22日(金) 計算機アーキテクチャ研究会 (ARC)  
 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会 (PRG)  
 22日(金)・23日(土) システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会(OS)  
 ハイパフォーマンスコンピューティング研究会 (HPC)

会 場 ホテル西武オリオン (沖縄県那覇市 Tel. (098)866-5533)

参加申込方法 まず、以下の参加申込用紙送付先に対し、Fax.または郵便にて住所、所属、氏名、電話、Fax.番号、電子メールアドレスを記入した用紙を送付して下さい。折返し詳しい参加申込案内と申込用紙を送付いたします。その用紙に必要事項をご記入の上、再度返送して下さい。

### 参加申込用紙送付先

〒104 東京都中央区銀座1-16-1 東貨ビル 西洋コンチネンタルホテルズ SWoPP琉球'94 担当係  
 Fax. (03)3535-8587 Tel. (03)3535-0531

参加申込締切 平成6年5月31日(火)

### 電子メールによる問合せ方法

SWoPP に関するメイリングリストを開設しています。SWoPP に関する最新の詳しい情報が必要な方は是非、本文に add YOUR-ADDRESS とだけ書いた電子メールをswopp-request@etl.go.jp宛に送って下さい。(必ず YOUR-ADDRESS のところをご自分のメールアドレスと置き替えて下さい。)自動的にメイリングリストに登録され、以後最新情報が送られます。

参加申込のお問合せは、参加申込用紙送付先、または電子メールにて swopp94-secretary@etl.go.jp までお願いします。

## ◆音楽情報科学研究会

### 発 表 論 文 募 集

音楽情報科学研究会では、毎年夏に「夏のシンポジウム (Summer Symposium)」と題して、合宿形式の研究会を主催しています。平成6年度も、この、いわゆる「夏シンポ」が行われます。通算で8回目を迎える今回は、長野での開催となります。「夏シンポ」の最大の特徴は、合宿形式で参加者同士がゆっくり議論できるところにあります。大好評となっている恒例の「深夜の討論会」も健在です。今回は特に、初日には長野市近郊の「戸隠(とがくし)高原」という青涼な観光地にある旅館を貸切りにして全員で宿泊し、パネルディスカッションや深夜のディスカッションなどを気がななくたっぷりと楽しめるようにしました。例年にも増して熱のこもったディスカッションを期待しています。

日 程 平成6年8月6日(土)・7日(日)

会 場 長野工業高等専門学校(長野市)

(中澤旅館(長野県上水内郡戸隠村)にてパネルディスカッション開催、6日夜宿泊予定)

発表申込締切 平成6年5月31日(火)

発表申込方法 発表題目、発表者名、略称所属、概要(50字程度)、発表申込者連絡先(住所、氏名、Tel., Fax., e-mail)をご記入のうえ、下記の申込先へe-mailまたはFax. で直接お申込みください。

申込・問合せ先 中澤達夫、大矢健一(長野高専) Tel. (0262)96-1515 Fax. (0262)95-4950

e-mail:ss94@ei.nagano-nct.ac.jp

◆グラフィクスとCAD研究会

前号(4月号)掲載の第68回研究会会告の6件目へ以下の発表が追加となり、特別講演は7件目となります。なお、開催時間の変更はございません。

・追加発表

(6) 高並列コンピュータAP1000の分散ディスクビデオハードウェアとソフトウェア

稲野 聡, 大江和一, 佐藤弘幸(富士通研)

\*特に申込の指定がない研究会の発表申込希望者は開催日の3カ月前までに研究会発表申込書(4月号本欄添付)を事務局研究会担当までご送付ください。



## 手書き数字データベースCD-ROM配布について郵政省からのお知らせ

郵政省郵政研究所では、使用済み年賀葉書に記載された3桁の手書き郵便番号をもとにした、手書き数字データベース「IPTP CD-ROM1」を作成しました。同研究所では、このCD-ROMを研究目的で使用する場合に限り、1研究機関につき1枚を無償で配布することとしております。詳細については同研究所までお問合せください。

### 手書き数字データベースの概要

対象データ : 使用済み郵便葉書に記載された3桁の手書き郵便番号

収録部分 : 郵便番号枠を含む、横30×縦15の部分

データ数 : 12,000サンプル(3桁の数字で1サンプルとする)

### 問合せ先

〒106 東京都港区麻布台1-6-19

郵政省郵政研究所 技術開発研究センター

担当: 能見 正, 山下 郁生

Tel. (03) 3224-7371 Fax. (03) 3224-7363

## 情報処理学会第49回全国大会実施要領

### 全国大会講演参加費等の改正について

－より良い全国大会の開催のために－

全国大会の運営も会員各位のご尽力により、内容の充実に当たっておりますが、厳しい日本経済の影響を受け苦しいものになっています。

この苦しい財政の建て直しを計り、参加者および講演発表者に、より良い条件で全国大会に参加していただくために、昭和51年（第17回）以降据え置きにしておりました参加費と昭和57年（第24回）以降据え置きにしておりました講演参加費を第49回全国大会（平成6年後期）から下記のように改正いたします。何卒ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

・講演参加費 会 員 7,000 円→9,000 円  
学 生 4,000 円→5,000 円

・参 加 費 会 員 1,000 円→2,000 円  
非会員 2,000 円→4,000 円  
学 生 無料

#### ・講演論文集発送について

今回から講演者および論文集予約者（継続購入は除く）には大会会場でお渡しいたします。  
なお、希望者には大会後有料で発送いたします。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

講演申込書締切日の厳守を徹底しますので、申込書等の提出は必ず期日までにお願いします。一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 平成6年9月28日（水）～30日（金）  
会 場 北海道大学教養部（札幌市北区北13条西 8）  
日程一覧 1. 講演申込書の送付

学会誌本号（Vol. 35, No. 5）掲載の講演申込書に記入して、応募規程 a. の申込方法により平成 6 年 6 月 15 日（水）（必着）お送りください。なお 6 月 15 日に持参する方はエステック情報ビル 27 階情報処理学会第一会議室にて受付けています。締切に遅れますと発表できなくなりますので、特に注意ください。

なお、プログラム編成が終わり講演番号が決定しますと、発表セッション等の変更はできません。論文の該当分野は十分ご確認ください。

#### 2. プログラム編成委員会の開催

講演申込書を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。

#### 3. 登録原稿等の送付

6 月下旬に事務局から「登録原稿」等をお送りいたします。講演番号も同時に通知いたしますので発表日時をご確認ください。

#### 4. 講演論文等の提出

講演論文原稿および登録原稿等を一括して 8 月 15 日（月）（必着）までにご提出ください。

#### 5. 大会プログラムを学会誌 9 月号（Vol. 35, No. 9）に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

#### I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

#### II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 平成 6 年度会費未納の会員は発表できません。

応募規程

- 4.電気, 電子情報通信, 照明, テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし, 奨励賞の表彰対象者にはなれません。

### Ⅲ. 講演論文該当分野

#### 1. 情報科学一般

##### A. 一般

- a. 哲学, b. 歴史, c. 伝記, d. その他

##### B. 社会

- a. 規格, b. 標準化, c. 知的所有権, d. 社会問題, e. その他

##### C. 教育

- a. 情報科学・工学の教育, b. カリキュラム, c. コンピュータリテラシ, d. CAI,  
e. 教育工学, f. その他

#### 2. 基礎理論及び基礎技術

##### A. 情報数学及び情報理論

- a. 形式理論, b. オートマトン理論, c. 言語理論, d. 計算可能性の理論, e. 計算の複雑さ,  
f. グラフ理論, 組合せ理論, g. 符号理論, h. その他

##### B. 非線形力学

- a. カオス, b. フラクタル, c. その他

##### C. アルゴリズム理論

- a. 離散アルゴリズム, b. データ構造, c. 並列アルゴリズム, d. 分散アルゴリズム,  
e. 確率アルゴリズム, f. 近似アルゴリズム, g. 計算幾何学, h. 計算代数学, i. 計算的学習理論,  
j. 数式処理, k. その他

##### D. オペレーションズリサーチ

- a. 線形, b. 非線形計画法, c. 動的計画法, d. 整数計画法, e. ゲーム理論, f. 待ち行列理論,  
g. ペトリネット, h. その他

##### E. 確率・統計

- a. 推定・検定, b. 確率モデル, c. 統計・確率計算, d. 多変量解析, e. 時系列解析,  
f. その他

##### F. 数値計算

- a. 誤差解析, b. 関数近似, c. 補間, d. 線形方程式, e. 非線形方程式, f. 固有値問題,  
g. 数値微分, h. 数値積分, i. 常微分方程式, k. 偏微分方程式, l. 積分方程式, m. 極値問題,  
n. 特殊関数, o. 乱数, p. その他

##### E. 数値シミュレーション

- a. 有限要素法, b. 差分法, c. 境界要素法, d. モンテカルロ法, e. 粒子シミュレーション,  
f. 可視化, g. その他

##### F. 高性能計算

- a. 並列化, b. ベクトル化, c. 性能評価, d. その他

#### 3. 人工知能及び認知科学

##### A. 知識処理

- a. 探索, b. 定理自動証明, c. 推論方式, d. 知識表現, e. 知識獲得, f. 知識ベース,  
g. 非単調理論, h. ファジィ推論, i. 不確実性処理, j. 学習, k. 理解・識別論,  
l. その他

##### B. 人工知能システム

- a. エキスパートシステム, b. エキスパートシステム作成支援ツール, c. ゲームプログラム,  
d. 知能ロボット, e. その他

##### C. 自然言語処理

- a. 機械翻訳, b. 形態素解析, c. 構文解析, d. 意味解析, e. 文生成, f. 談話理解,  
g. 文法, h. 辞書, i. その他

##### D. パターン認識

- a. 音声認識, b. 話者識別, c. 画像理解, d. 物体認識, e. 文字認識, f. リモートセンシング,  
g. 図面認識, h. その他

##### E. 生体情報処理

- a. 視覚, b. 聴覚, c. 神経モデル, d. サイバネティクス, e. ニューラルネットワーク,
- f. 自己組織化, g. 遺伝的アルゴリズム, h. 人工生命, i. その他
- F. 感性情報処理
  - a. 心理モデル, b. 行動モデル, c. 感情モデル, d. その他
- 4. データ処理
  - A. 音声処理
    - a. 音声分析, b. 音声合成, c. その他
  - B. 画像・図形処理
    - a. 画質改善, b. 帯域圧縮, c. 符号化, d. 曲面合成, e. トモグラフィ, f. 3次元処理,
    - g. グラフィックス, h. アニメーション, i. その他
  - C. テキスト処理
    - a. ワードプロセッシング, b. 日本語入出力, c. 文書処理, d. 卓上出版, e. フォントデザイン,
    - f. パターン照合アルゴリズム, g. その他
  - D. マルチメディア処理
- 5. ソフトウェア
  - A. 基礎理論
    - a. プログラム理論, b. オペレーティングシステム理論, c. データベース理論, d. 形式的意味論,
    - e. 算術理論, f. 検証理論, g. カテゴリ理論, h. 属性文法, i. 計算パラダイム,
    - j. プログラム合成・変換, k. その他
  - B. プログラム言語及び仕様記述言語
    - a. 手続き型言語, b. 論理型言語, c. 関数型言語, d. オブジェクト指向言語, e. 並列処理言語,
    - f. システム記述言語, g. 数式処理言語, h. シミュレーション言語, i. 仕様記述言語,
    - j. その他
  - C. 言語処理系
    - a. 構文解析, b. コード生成, c. 最適化, d. コンパイラ, e. インタプリタ, f. 並列化コンパイラ,
    - g. その他
  - D. ツール
    - a. エディタ, b. デバッガ, c. ベリファイヤ, d. コンパイラジェネレータ, e. 並列化支援ツール,
    - f. その他
  - E. ウィンドウシステム
  - F. オペレーティングシステム
    - a. 記憶管理, b. 入出力管理, c. 障害管理, d. 通信管理, e. ファイル管理, f. ジョブ・タスク管理,
    - g. 自動運転管理, h. 並列分散処理, i. 例外処理, j. 性能評価, k. その他
  - G. データベース・情報検索
    - a. データモデル, b. データ言語, c. データベース設計, d. 質問処理, e. トランザクション処理,
    - f. 一貫性制約, g. ファイル構成, h. 検索方式, i. 分散データベース, j. マルチメディアデータベース,
    - k. 演繹データベース, l. オブジェクト指向データベース, m. その他
  - H. プログラミング技術
    - a. データ構造, b. ガーベジコレクション, c. ハッシング, d. ソーティング, e. サーチング,
    - f. ベクトル化, g. 並列化, h. その他
  - I. ヒューマンインタフェース
- 6. ソフトウェア工学
  - A. 開発技術
    - a. 設計理論, b. 要求分析法, c. 仕様記述法, d. プログラミング方法論, e. プロトタイピング,
    - f. 部品化・再利用技術, g. ドメイン分析, h. モデリング・プログラム自動構成,
    - i. 仕様検証, j. その他
  - B. テスト・保守・管理
    - a. プログラムのテスト・デバッグ, b. プログラム検証, c. 性能評価, d. プログラム解析,
    - e. 保守運用管理, f. メトリックス, g. その他
  - C. ソフトウェアプロセス
    - a. プロセスモデル, b. プロセスプログラミング, c. 工程管理, d. その他

- D. 開発環境
  - a. 構成理論, b. 分散開発環境, c. 文書化支援, d. リポジトリ又はSEDB, e. その他
- E. ヒューマンファクタ
  - a. マン・マシンインタフェース, b. 要員教育, c. プロジェクト管理, d. プログラミング行動, e. その他
- F. ソフトウェア品質
  - a. 品質保証, b. 品質管理, c. 品質メトリクス, d. 信頼性予測, e. その他
- 7. ハードウェア
  - A. 基礎理論
    - a. 組合せ回路理論, b. 順序回路理論, c. 論理設計理論, d. レイアウトアルゴリズム, e. ハードウェアアルゴリズム, f. その他
  - B. 論理回路
    - a. 記憶回路, b. 演算回路, c. 制御回路, d. 誤り検出・訂正回路, e. テスト容易化回路, f. その他
  - C. デバイス
    - a. 論理デバイス, b. 記憶デバイス, c. 入出力デバイス, d. ASIC PLD, e. その他
  - D. アーキテクチャ
    - a. 汎用計算機, b. 専用計算機, c. 高級言語マシン, d. スーパーコンピュータ, e. ワークステーション, f. マイクロプロセッサ, g. 非ノイマンアーキテクチャ, h. 並列アーキテクチャ, i. 相互結合網, k. フォールトトレランス, l. リアルタイムシステム, m. DSP, n. ニューロコンピュータ, o. 光コンピュータ, p. その他
  - E. 周辺・端末
    - a. 外部記憶, b. ディスプレイ装置, c. ハードコピー装置, d. 文字読取装置, e. 図形入出力装置, f. 音声入出力装置, g. その他
  - F. 設計技術及び設計自動化
    - a. 方式設計, b. 機能設計, c. 論理設計, d. レイアウト設計, e. テスト設計, f. 設計記述言語, g. 論理合成, h. その他
  - G. 開発環境
    - a. 統合化ツール, b. 設計環境, c. 設計データベース, d. その他
  - H. テスト・検証
    - a. LSI テスト, b. ハードウェア設計検証, c. 性能評価, d. その他
- 8. ネットワーク
  - A. 通信技術
    - a. データ交換方式, b. 通信方式, c. 画像通信, d. トラヒック理論, e. ネットワークアーキテクチャ, f. プロトコル, g. プロトコル検証, h. その他
  - B. ネットワーク管理
    - a. 名前管理, b. 経路管理, c. 障害管理, d. その他
  - C. コンピュータネットワーク
    - a. WAN, b. LAN, c. 電子会議, d. 電子掲示板, e. 電子メール, f. 分散処理, g. その他
- 9. システム
  - A. 対話型システム
    - a. 構成理論, b. 方法論, c. CAE, d. CAD, e. CAM, f. CIM, g. CAI, h. 管制システム, i. 訓練システム, j. 意志決定システム, k. オフィスシステム, l. その他
  - B. グループウェア
    - a. 協調基礎, b. グループワーク応用, c. グループワークインフラストラクチャ, d. マルチユーザインタフェース, e. 事例研究, f. その他
  - C. オンラインシステム
    - a. 予約システム, b. バンキングシステム, c. その他
  - D. 制御システム
    - a. プロセス制御, b. 数値制御, c. 通信制御, d. 産業用ロボット, e. FA, f. その他

## E. システム評価

- a. 評価技法, b. 評価指標, c. 評価モデル, d. その他

## 10. 信頼性と安全性

## A. 信頼性

- a. 信頼性理論, b. 保全性理論, c. 信頼性評価, d. 故障解析, e. その他

## B. 機密保護

- a. 暗号理論, b. 認証, c. 鍵管理, d. 鍵配送, e. セキュリティ, f. その他

## 11. 応 用

## A. 企業等への応用

- a. オフィス, b. 行政, c. 経営, d. 金融, e. 情報サービス, f. 生産管理, g. 計算機セントラ運営, h. 教育, i. その他

## B. 工学等への応用

- a. 航空・宇宙, b. 機械, c. 土木, d. 建築, e. 都市, f. 電気・電子, g. 計測, h. 生物, i. 物理, j. 化学, k. 原子力, l. 輸送・交通, m. 医学・歯学, n. その他

## C. 芸術等への応用

- a. 音楽, b. 絵画, c. 商業デザイン, d. その他

## D. その他への応用

- a. 自然科学, b. 社会科学, c. 人文科学, d. 障害者補助, e. その他

## IV. 申込方法

1. 本号会告のページ掲載の「全国大会講演申込書」に必要事項を記入して6月15日（水）（必着）までに申込むこと。

2. 講演申込は講演申込書および講演参加費を添えて申込むこと。

なお、連続発表を希望される場合は、別紙にて標題、講演者名および発表順番を明記し、まとめて送付すること。

## V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。

2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。また、別紙にて標題、発表分野を明記しまとめて送付すること。

## VI. 講演参加費

1. 1件につき、会員は 9,000 円、学生は 5,000 円です。

2. 講演申込書を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

## VII. 論文原稿提出

1. 論文原稿は、平成6年8月15日（月）（必着）までに提出してください。

2. 論文は日本語または英語とします。

3. 論文抄録を「学会発表データベース（第一系）、学術情報センター」に入力しますので、所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。

4. ワープロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。

5. 論文原稿提出後の訂正は一切取扱いません。よく推敲して提出してください。

6. 論文原稿の返却はいたしません。

## VIII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会（プログラム編成委員会）が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。

2. 内容が商業宣伝に偏したもの（極端な商品名の引用には注意する）。

3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。

4. 応募規程に違反するもの。

5. 提出期限に遅れたもの（次回への応募をお薦めします）。

## IX. 論文集の配布

発表者には講演論文を含んだ論文集1冊を大会当日にお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず総受付の講演者受付で、出席の確認を受け、論文集、プログラムおよび参加章を受け取ってください。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の近くに設けられた講演者控え席で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間とします（都合により13分間のセッションもあります）。講演中でも時間切れて打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分間および3分間に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理（読）は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

（社）情報処理学会 全国大会係

〒106 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F Tel. (03)5322-3535



## 本会協賛等の行事案内\*

### <国内会議>

第206回講習会「不況を吹き飛ばす巨大市場開拓」

平成6年6月30日（木）

東京・機械振興会館

第6回テクニカルコミュニケーションシンポジウム

平成6年8月25日（木）～26日（金）

東京・工学院大学

第9回生体・生理工学シンポジウム

平成6年11月29日（火）～12月1日（木）

茨城・工業技術院共用講堂

光学連合シンポジウム浜松 '94

平成6年9月22日（木）～23日（金）

クリエート浜松

第25回人工知能セミナー

平成6年7月12日（火）

東京・日本ユニシス

平成6年度第1回ORセミナー「多変量データの解析」

平成6年6月24日（金）

東京ガス本社

講習会「脳・心・コンピュータ」

平成6年7月20日（水）～22日（金）

東京・社会文化会館

第37回自動制御連合講演会

平成6年11月16日（水）～18日（金）

大阪府教育会館

第31回サマーセミナー（1994年）「マルチメディア時代における光技術の役割」

平成6年8月24日（水）～26日（金）

静岡・浜名荘

カラーフォーラム JAPAN '94

平成6年10月26日（水）～28日（金）

東京・工学院大学

### <国際会議>

超並列アーキテクチャ、アルゴリズムおよびネットワークに関する国際シンポジウム

1994年12月14日（水）～16日（金）

石川ハイテク交流センター

\*詳細は本号会議案内欄参照





## 夏のプログラミングシンポジウムのお知らせ

今年の夏のシンポジウムは以下のように「娯楽とコンピュータ」というテーマで行うことにします。ふるってご参加ください。

Johan Huizingaが人類をHomo Ludens（ホモ・ルーデンス、遊戯人）と呼んだように、人間には本性的に遊びの心があり、すべてのものを遊びの対象にします。実用の道具としてスタートしたコンピュータも例外ではありません。しかも、最近は家庭にコンピュータが浸透するようになり、ファミコンに代表されるような娯楽のためのコンピュータが大きなビジネスになってきました。しかし、楽しむ対象という意味では、もっと大きな可能性がコンピュータに秘められていると思います。

本シンポジウムでは、コンピュータと（広い意味での）娯楽との関わりをいろいろな観点から議論しようと思います。発表が期待される分野は以下のようなもので、多少粗削りのものが（むしろ）歓迎されます。もちろん、このシンポジウムのテーマに関係があれば以下のもの以外でもふるってご発表ください。

コンピュータを道具とする娯楽（楽しみ）——次のキーワードに「娯楽としての」あるいは「娯楽のための」を冠してみてください。

〔キーワード〕コンピュータゲーム、AIとしてのゲーム、コア戦争、パズル、コンピュータアニメ、コンピュータグラフィックス、コンピュータ音楽、人工生命、仮想現実感、ネットワークゲーム、マルチメディア、コンピュータ制御ギャンブル、マイクロマウス、ロボット競技会、...

コンピュータそのものを対象とする娯楽（楽しみ）

〔キーワード〕ソフト／ハードのコレクション、道楽としてのプログラミング、ハッカーとクラッカー、コンピュータおたく、...

コンピュータに関係したレクリエーション数学（そういえば、有澤誠さんが「コンピュータレクリエーション」という本を書いたことがあります）

娯楽とコンピュータに関する、文化論的、社会学的、心理学的考察

テーマがテーマですので、発表も議論もできるだけ楽しくやりたいと思います。

時：平成6年7月27日（水）午後1:00～29日（金）12:00

所：NTT ゆかり荘（〒248 神奈川県鎌倉市材木座5-7-5，Tel. (0467)22-0038）

夏は由比が浜の海の家になるほど海に近い宿です（徒歩3分）。鎌倉駅から海側へ徒歩20分弱ですが、バス便があります。

員：60名

加費：30,000円

発表ご希望の方は、題名・内容のあらまし、発表者の氏名、性別、所属、連絡先（できればe-mail addressも）を5月日（金）までに情報処理学会シンポジウム係（〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階 1. (03)5322-3535，Fax. (03)5322-3534）までお送りください。また、発表を聞くだけの参加はその旨を明記してお込みください。

事：竹内 郁雄（NTT）Fax. (0462)40-4708，e-mail:nue@ntt-20.ntt.jp

（e-mail は、山崎 憲一（NTT）yamazaki@nuesun.ntt.jpにもccで送っていただければありがたいと思います。）

## 「グループウェア '94」シンポジウムのお知らせ及び論文募集

グループウェア研究会では、昨年の「Groupware '93 マルチメディアと通信インフラ」に続き、3回目のシンポジウムを、下記の通り、開催を計画しております。

今年は招待講演に加えて、一般論文も募集することとなりました。

多数の論文のご投稿をお待ちしております。

### 記

#### 1. シンポジウム名

「グループウェア '94-組織運営と知的創造環境支援-」

#### 2. 開催の主旨

本研究会では、平成4年10月23日に慶応大学において「グループウェア '92-グループウェアはマルチサイトオフィスのインパクトとなるか-」、平成5年7月8日に工学院大学において「グループウェア '93-マルチメディアと通信インフラ-」と題して毎年シンポジウムを開催してきました。

シンポジウムには、情報、通信分野の研究者、技術者のみならず社会学、心理学、経営・組織論など工学以外の分野からも多数の参加を得て、活発な討論を行いました。

昨年は、人間の社会活動を支える通信インフラと情報処理システムのあり方を、技術的、人間的、社会的な各側面から議論し、今後の動向を展望してきました。

現在、映像・音声・データなどを同時に扱えるマルチメディアコンピューティング技術の進展と通信ネットワークの高速化・広帯域化によって、時間と空間の壁を越えてひとつの場を共有し、協調して作業するグループ活動を支援する情報処理システム（グループウェアシステム）の研究開発が活発化しつつあります。特に、組織における共同作業は人間の振舞い、組織や社会のあり方に深く関係しており、これを支援するシステムは、技術面だけでなく、行動科学や心理学といった人間的側面、さらに組織構造論や社会心理学といった社会的側面をも合わせて考慮したシステムであることが理想と言えましょう。また、単なる情報通信インフラを越えて、人間の働きがいを向上させるために、リエンジニアリングなどで組織を活性化し、知的創造作業の支援を行うトータルな環境が求められています。

今回は、第3回として、組織における高次の人間行動を支える総合的環境をテーマに取り上げ、技術的、組織的、行動科学的観点から議論し、グループウェアの研究および開発の今後の進むべき方向を明らかにしていこうと考えています。

#### 3. テーマ（予定）「グループウェア '94-組織運営と知的創造環境支援-」

基調講演、招待講演、一般講演、パネルディスカッション、を行います。

##### 一般講演テーマ

主なテーマは以下の通りですが、必ずしもこれらに限りません。広く学際的な研究発表を歓迎いたします。

- ・組織運営と知的創造環境支援
- ・グループウェアの実現と評価
- ・協調行動支援の方法論
- ・その他グループウェアに関連する研究、開発、調査、報告

#### 4. 日 時 平成6年11月24日（木）、25日（金）10時～17時

#### 5. 場 所（予定） NTT 麻布セミナーハウス（〒106 東京都港区南麻布4-5-63 Tel. (03)3440-5454 Fax. 3440-5460

地下鉄日比谷線広尾駅下車徒歩3分）（当初の予定と変更になりましたのでご注意下さい）

#### 6. 参加費 グループウェア研究会会員 10,000円 情報処理学会会員 15,000円 情報処理学会学生会員 3,000円 非会員 25,000円 論文集のみ（送料込） 5,000円

#### 7. 主 催 情報処理学会 グループウェア研究会

#### 8. 論文応募要領

- ・発表申込締切 平成6年8月20日

応募多数の場合には、グループウェア研究会にて採否を決定することになりますのでご了承ください。

- ・応募形式

通常の研究会と同一形式で表紙含み6ページ

- ・採否決定通知発送 平成6年9月8日
- ・カメラレディ締切 平成6年10月28日

#### 9. 連絡先、申込先 （社）情報処理学会 シンポジウム係

（7月15日まで）〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534

（7月18日以降）〒108 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

情報処理学会「行事」・「書籍」申込書  
(本申込書は、お一人1枚にて、下記ご記入の上、お申し込みください)

(コードNo.は、開催のお知らせに記載してあります)

○第48回全国大会論文集バックナンバー (送料込)

|        |  |
|--------|--|
| コードNo. |  |
|--------|--|

○参加費 (シンポジウム・講習会・セミナー)  
(該当するものを○で囲み、金額を記入してください)

|      |                   |
|------|-------------------|
| 該当を○ | 会員・研究会登録会員・非会員・学生 |
| 金 額  |                   |

・参加費には資料代が含まれています。  
・3日前までに連絡なき欠席の場合にも参加費を徴収させていただきます。

○懇親会費 \_\_\_\_\_ 円  
○資料のみ (送料込) \_\_\_\_\_ 冊 \_\_\_\_\_ 円  
通信欄  
[ ]

○アンケート (宿泊付の場合の部屋割りの参考にします)  
(1) たばこ : ☐すう ☐すわない  
(2) 年齢 : ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代以上  
その他ご要望があればお書きください。  
[ ]

| 分 冊  | 定 価     | 部数 | 金 額  |
|------|---------|----|------|
| 第1分冊 | 6,000円  |    |      |
| 第2分冊 | 6,000円  |    | 売り切れ |
| 第3分冊 | 6,000円  |    |      |
| 第4分冊 | 6,000円  |    |      |
| 第5分冊 | 6,000円  |    |      |
| 第6分冊 | 6,000円  |    |      |
| セット  | 36,000円 |    |      |
| 合 計  |         |    |      |

・上記論文集バックナンバーお申込みの場合、コードNo.は空欄で結構です。  
・全国大会バックナンバーに関するお問合せは、事務局図書係までお願いします。

○送金明細

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |       |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| 支 払 方 法<br>(該当を○してください) | a) 当日、会場受付にて支払います。<br>b) 現金書留で _____ 月 _____ 日に送金します。<br>c) 郵便振替 (東京5-83484) で _____ 月 _____ 日に送金します。<br>d) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で _____ 月 _____ 日に送金します。<br>1. 第一勧銀新宿西口支店 2049562<br>2. 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608<br>1,2とも名義人 社団法人 情報処理学会<br>3. 三菱銀行虎ノ門公務部 0003774 (全国大会専用口座)<br>名義人 社団法人 情報処理学会講習会 |       |       |
|                         | 送 金 人 名 義 _____ 様                                                                                                                                                                                                                                                                          |       |       |
| 請 求 書 類                 | 請求書 通                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 見積書 通 | 納品書 通 |
|                         | 請求先                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |       |

申込先: (社) 情報処理学会 事業係 〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階  
Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534 e-mail: simanuki@ipsj.or.jp  
e-mailでの申込みの場合は、本申込書の事項をもれなく明記し、お送りください。

通信・送付先

住所 〒 \_\_\_\_\_

機関・部課名 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 様 会員番号 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

Tel. \_\_\_\_\_ (ext. \_\_\_\_\_ ) Fax. \_\_\_\_\_

コード No. S-CV94

# 「画像の認識・理解シンポジウム (MIRU '94)」開催について

標記シンポジウムを下記の要領で開催いたします。皆様奮ってご参加ください。

日 時 平成6年7月13日（水）～15日（金）（12日夜にチュートリアルがあります）

場 所 グリーンピア南阿蘇（〒869-14 熊本県阿蘇郡久木野村久石 Tel. (09676)7-2131 ）

主 催 情報処理学会 コンピュータビジョン研究会

電子情報通信学会パターン認識・理解研究会

協 賛 テレビジョン学会画像応用研究会

参 加 費 会員 47,000円、学生 39,000 円、非会員 50,000円

※参加費は、3泊の宿泊費、昼食2食、懇親会費、論文集代を含みます。7月12日夜より7月15日昼まで  
実行委員会で宿泊のための部屋を予約してあります。

資料のみ 8,000 円（送料込み）

申込締切 平成6年5月27日（金）（定員120 名、宿泊施設の関係で定員になり次第締切ります）

申 込 先 (社) 情報処理学会 シンポジウム係

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル 27階

Tel. (03) 5322-3535 Fax. (03) 5322-3534

## － MIRU'94 プログラム－

| 7月12日           | 7月13日                   |                         | 7月14日                   |                          | 7月15日                   |                         |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| チュートリアル<br>↓    | 開会の辞<br>9:00～9:10       |                         |                         |                          |                         |                         |
|                 | 招待講演<br>9:10～10:10      |                         | 招待講演<br>9:00～10:00      |                          | S (13) 4件<br>9:00～10:20 | S (14) 4件<br>9:00～10:20 |
|                 | L (1) 3件<br>10:15～12:10 | L (2) 3件<br>10:15～12:10 | L (3) 3件<br>10:10～12:05 | L (4) 3件<br>10:10～12:05  | L (5) 2件<br>10:30～11:35 | L (6) 2件<br>10:30～11:35 |
|                 | 昼食<br>12:10～13:10       |                         | 昼食<br>12:10～13:00       |                          | 閉会の辞<br>11:45～12:00     |                         |
|                 | S (1) 5件<br>13:10～14:50 | S (4) 5件<br>13:10～14:50 | S (7) 6件<br>13:00～15:00 | S (10) 6件<br>13:00～15:00 |                         |                         |
|                 | S (2) 5件<br>15:00～16:40 | S (5) 4件<br>15:00～16:20 | S (8) 6件<br>15:10～17:10 | S (11) 6件<br>15:10～17:10 |                         |                         |
| 16:30<br>～17:30 | S (3) 5件<br>16:50～18:30 | S (6) 5件<br>16:50～18:30 | S (9) 4件<br>17:20～18:40 | S (12) 4件<br>17:20～18:40 |                         |                         |
|                 | 懇親会<br>19:00～21:00      |                         |                         |                          |                         |                         |

7月12日(火)

チュートリアル(16:30~17:30)

脳を持たないロボット

稲葉 雅幸(東大)

第1日 7月13日(水)

開会の辞(9:00~9:10)

松山 隆司・阿部 圭一 両実行委員長

招待講演(9:10~10:10)

司会 松山 隆司(岡山大)

・並列アルゴリズムの最近の動向

宮野 悟(九州大)

一般講演(10:15~18:30)

L(1) 3次元数値I(10:15~12:10)

・3次元的に存在する直線がなす幾何学的不変量

杉本 晃宏(ATR)

・複数視点からのコニックを基準にした不変量

高永 治, 久野 義徳, 三浦 純, 白井 良明(阪大)

・ドロネー網を用いた3次元形状の高機能ポリゴンパッチ生成法

山本 裕之, 山内 晋二, 田村 秀行(キャノン)

S(1) 文字・文書画像I(13:10~14:50)

・結合数を含む複数の特徴を用いたのオフライン手書き漢字認識

川勝 法史, 高坂 一城, 大森 健児(法政大)

・漢字の図形的・統計学的情報を用いた手書き漢字認識システム

姉川 正紀(長崎大), 志久 修(佐世保高専), 中村 彰, 中村 千秋, 黒田 英夫(長崎大)

・力学モデルによる筆順を考慮したオフライン文字認識の基礎研究

永崎 健, 中川 正樹(農工大)

・ストロークのつながりに寛容なオンライン手書き文字認識

秋山 勝彦, 中川 正樹(農工大)

・色分類によるカラー文書画像からの文字パターン抽出法

仙田 修司, 美濃 導彦, 池田 克夫(京大)

S(2) 3次元数値II(15:00~16:40)

・輪郭線の屈曲点, 変曲点, 遷移点の検出

杉本 和英, 富田 文明(電総研)

・イメージ・スキャナを用いた書籍表面の3次元復元(II) - 相互反射を考慮したShape from Shading -

浮田 浩行, 和田 俊和, 松山 隆司(岡山大)

・不連続性を保存した平滑化による3次元曲面の形状復元と特徴抽出

査 紅彬, 村松 彰二, 長田 正(九大)

・Adaptive sampling and reconstruction for discontinuity-preserving texture mapped triangulation

田中 弘美(ATR)

・Shape and reflectance of a polyhedron from interreflections

楊 駿, 大西 昇, 杉江 昇(名大)

S(3) 文字・文書画像II(16:50~18:30)

・文字同士の接触パターンに基づく文字切り出し処理を用いた手書き文字列認識

藤井 俊治, 大森 健児(法政大)

・手書き文字認識における重み付き距離関数の学習法 - 重み付き学習ベクトル量子化 -

坂野 鋭, 出元 浩, 木田 博巳(NTTデータ)

・複数特徴による階層的識別器の自動設計に関する一手法

井藤 好克, 大橋 健, 江島 俊郎(九工大)

・手書き文字認識を指向した力学的認識モデルの一形態

寺村 健, 中川 正樹(農工大)

・リカレントニューラルネットワークによる刻印文字画像の二値化

久保田 整(スズキ)

L(2) 領域分割(10:15~12:10)

・等色線情報に基づくカラー画像の領域分割

武田 哲也, 岡田 至弘(龍谷大)

・分散協調処理による画像の領域分割法

和田 俊和, 野村 圭弘, 松山 隆司(岡山大)

・エッジ情報と領域情報を組み合わせた領域分割手法

杉山 岳弘, 阿部 圭一(静岡大)

S(4) 画像解析I(13:10~14:50)

画像中の半透明物体の検出について - 彩色物体の場合 -

松久 祥子, 大西 昇, 杉江 昇(名大)

複数の反射率を持つ対象物体の明るさ解析型形状推定法

伊東 敏夫(ダイハツ工業)

New descriptors for texture segmentation and description using the texture spectrum approach

Rafael Santos, 大橋 健, 江島 俊郎(九工大)

連続スペクトル画像による物体認識についての考察

真鍋 佳嗣, 佐藤 宏介, 井口 征士(阪大)

似顔絵送受信機能を持つコミュニケーションツールの提案と実現

土屋 孝文(中京大)

鈴木 健志(名鉄コンピュータサービス), 村上 和人, 樋口 一枝, 興水 大和, 戸田 正直(中京大)

S(5) 領域と境界の抽出(15:00~16:20)

可変バイアスニューラルネットワークを用いた輪郭特徴抽出

原 健二(福岡県工業技術センター), 査 紅彬, 長田 正(九大)

遮蔽エッジの光学的性質

藤原 久永(岡山県工業技術センター), 浅田 尚紀, 松山 隆司(岡山大)

判別分析法を用いたHough 変換セグメント切り出しアルゴリズム

加藤 邦人, 村上 和人, 興水 大和(中京大)

- ・最小記述長原理に基づく輪郭線図形の記述と認識について 窪田 進, 出口光一郎 (東大)
- S (6) 画像解析Ⅱ (16:50~18:30)
- ・一般化ハイパーコラムモデルの画像認識能力について 鶴田 直之, 谷口倫一郎, 雨宮 真人 (九大)
- ・パイプライン方式によるリアルタイムの領域ラベリング 服部 哲郎 (香川大)
- ・多次元ヒルベルト曲線を利用した多次元画像解析 新見 道治, 鎌田清一郎, 河口 英二 (九工大)
- ・記号操作とパターン認識の統合による画像推論 -回路素子の誤認識の修正- 竹内 好昭, 西 美保子, 大森 隆司 (農工大)
- ・階層化領域属性記述に基づく画像データベースシステムの構築 津田 修, 岡田 至弘 (龍谷大)
- 第2日 7月14日 (木)
- 特別講演 (9:00~10:00) 司会 阿部 圭一 (静岡大)
- ・コンピュータビジョンにおける計測の役割 井口 征士 (阪大)
- 一般講演 (10:10~18:40)
- L (3) 3次元数理Ⅲ (10:10~12:05)
- ・照度に基づく動画画像解析 武川 直樹 (NTT)
- ・なめらかな多価関数によるデータ近似を行う標準正則化アルゴリズムと多重表面の復元 志沢 雅彦 (ATR)
- ・能動的なカメラの運動によるカメラ内部パラメータ同定法 木下 敬介, 出口光一郎 (東大)
- S (7) 記述とモデリング (13:00~15:00)
- ・力の入出力に着目した道具の機能モデル表現と物体認識への適用 服部 洋一, 秋山 文一, 黄瀬 浩一 (大阪府立大), 北橋 忠宏 (阪大), 高松 忍, 福永 邦雄 (大阪府立大)
- ・Segmentation of texture recognition of two geometric primitives for automated input of engineering drawing B.W. MIN(System Eng. Research Institute), H. Koshimizu(Chukyo Univ.), J-I. Toriwaki(Nagoya Univ.)
- ・注意制御に基づく図面理解 北村 聡, 加藤 博一, 井口 征士 (阪大)
- ・空間的広がりを考慮した領域間の位置関係の記述 宮島 耕治, Anca Ralescu (国際ファジィ工学研)
- ・画像オブジェクトモデルに基づく3次元構造の獲得 守田 了, 田中 稔 (山口大)
- ・階層的パーツ記述からの3次元物体カテゴリーモデルの獲得 森山 真光, 佐藤 嘉伸, 田村 進一 (阪大)
- S (8) 3次元数理Ⅳ (15:10~17:10)
- ・2次元照合による3次元物体の認識 -パラメトリック固有空間法- 村瀬 洋 (NTT), Shree Nayar (コロンビア大)
- ・多数の画像のボーティングによる3次元情報抽出 川戸慎二郎 (ATR)
- ・座標変換パラメータの並列推定に基づいた3次元情報接続 森本 正志, 末永 康仁, 中根 一成 (NTT)
- ・位置姿勢推定のための多重方向ヒストグラム 田中 弘一, 武川 直樹 (NTT)
- ・指向性投票に基づくGeometric Hashing 法による姿勢認識 柴田 昌宏, 金子 俊一, 本田 庸悟 (農工大)
- ・二つの視点から撮影した同一情景の領域間対応づけ 王 彩華, 阿部 圭一 (静岡大)
- S (9) 動画画像解析Ⅰ (17:20~18:40)
- ・対象の局在性に着目した障害物認識手法 羽下 哲司, 笹川 耕一, 黒田 伸一 (三菱)
- ・動的光散乱法に基づく動画画像処理によるサブミクロン粒子のブラウン運動解析 百田 正広 (徳山高専), 木村 毅, 三池 秀敏 (山口大)
- ・複数ウィンドウの輪郭追跡による側方車両速度検出 越後 富夫 (日本IBM)
- ・エッジヒストグラム法を用いた走行環境認識の一手法 伊東 敏夫, 山田 憲一 (ダイハツ工業)
- L (4) 画像解析Ⅲ (10:10~12:05)
- ・コア領域を用いるシーン解釈 Michael Hild, 白井 良明 (阪大)
- ・スケールスペースにおけるエッジの移動量を用いた図形輪郭の特徴抽出 奥田 浩人, 出口光一郎 (東大)
- ・Does the brain have a 'Lie algebra machine' cortex? -Invariant recognition of objects using Lie algebra of perceptual vector fields 趙 晋輝 (中央大), 箕輪 研二, 辻井 重男 (東工大)
- S (10) センサ統合 (13:00~15:00)
- ・ステレオカメラシステム -パタパター- 河井 良浩 (電総研), 石山 豊 (スタンレー電気), 植芝 俊夫, 角 保志 (電総研), 高橋 裕信 (三洋電機), 富田 文明 (電総研)
- ・3台のレンジファインダを用いた物体の姿勢決定における最適センサ配置の設計 見持 圭一 (三菱重工), 金出 武雄 (カーネギーメロン大)
- ・Shooting recognition of motion scenes for robot vision 小島 浩, 関 進, 高橋 勝彦, 岡 隆一 (RWCP)

- ・全方位視覚センサHyoer Omni Vision を用いた視覚誘導 山澤 一誠, 八木 康史, 谷内田正彦 (阪大)
- ・複合視覚センサMISSによる効率的3次元情報の獲得 奥村 仁, 八木 康史, 谷内田正彦 (阪大)
- ・複数ペア画像を用いたステレオマッチング 尾島 修一 (ATR), 森村 淳 (松下電器)
- S (11) 手・顔画像の解析 (15:10~17:10)
- ・ピラミッド構造を用いたニューラルネットによる顔領域の切り出し 奥 真一, 有木 康雄 (龍谷大)
- ・3次元空間の運動を指示するジェスチャーの認識 小野 伸文, 松永 敦, 大橋 健, 江島 俊郎 (九工大)
- ・区分線形変換による似顔絵生成と表情について - 似顔絵生成の基礎理論 - 村上 和人, 興水 大和, 中山 晶, 福村 晃夫 (中京大)
- ・上肢運動モデルを用いた手話教示システム 西川 誠, 寺内 睦博 (広島大)
- ・単眼動画からの手の3次元運動及び位置の推定 岩井 儀雄, 八木 康史, 谷内田正彦 (阪大)
- ・Gesture recognition from time-varying images 高橋 勝彦, 関 進, 小島 浩, 岡 隆一 (RWCP)
- S (12) 距離画像 (17:20~18:40)
- ・距離画像処理による物体検出システム 脇迫 仁 (安川電機), 鎌田清一郎, 河口 英二 (九工大)
- ・球面調和関数による距離画像の高効率なデータ圧縮 堀越 力, 末永 康仁, 中根 一成 (NTT)
- ・多面体近似を用いた距離画像の領域分割 村瀬 晋二 (名大)
- ・単純な形状に着目した距離画像の粗さにロバストな形状認識 梅田 和昇, 新井 民夫 (東大)
- 第3日 7月15日 (金)
- 一般講演 (9:00~11:40)
- S (13) 動画画像解析 II (9:00~10:20)
- ・集団行動の定性的動画画像解析 川嶋 稔夫, 吉野 和芳, 青木 由直 (北大)
- ・動画画像からの背景画像の自動生成と適応的更新 影広 達彦, 大田 友一 (筑波大)
- ・流体方程式に基づくオプティカルフロー計算 中島 義和 (福井大), 野川 裕記, 佐藤 嘉伸, 田村 進一 (阪大), 岡崎 耕三 (福井大)
- ・対象物体の回転による形状と反射率の同時計測 日浦 慎作, 佐藤 宏介, 井口 征士 (阪大)
- L (5) 動画画像解析 (10:30~11:40)
- ・濃淡の保存則による勾配法の拡張 野村 厚志 (山口大)
- ・リアルタイム・オプティカルフロー・プロセッサISHTAR 塩原 守人, 瀬川 英吾, 江川 宏一, 佐々木 繁 (富士通)
- S (14) 医用画像解析 (9:00~10:20)
- ・3次元モルフォロジカルフィルタによる肺癌病巣陰影の自動認識 山本 眞司 (豊橋技科大)
- ・トップダウン型3次元画像認識システムTOPS-3D とその頭部MRI3次元画像への応用 江 浩, 今尾 雅尚, 山本 眞司 (豊橋技科大)
- ・試行錯誤探索による胃X線二重造影からの胃輪郭線追跡 上井 弘樹, 山田 耕久, 白石 達也, 福島 重廣 (九工大)
- ・顎関節X線画像の理解 安永 真二, 児玉 和彦, 来栖 剛臣, 福島 重廣 (九工大), 大庭 健 (九州歯大)
- L (6) 画像理解ハードウェア (11:30~11:40)
- ・視覚システム 'Sheila' の硝子検査システムへの応用 伊藤 禎康 (名工大)
- ・再帰トラス結合アーキテクチャにおける並列対象認識アルゴリズム 青山 正人, 浅津 英樹, 浅田 尚紀, 松山 隆司 (岡山大)
- 閉会の辞 (11:45~11:50) 長谷川純一プログラム委員長 (中京大)

コードNo. S-IS94

## 第6回「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集 －社会の変化と情報システムの新しいミッション－

情報システムが個人から一般社会にいたるさまざまな組織に広く普及・浸透してきた今日、利用者を指向した情報システムを如何に実現するかが重要な課題となっている。この課題に取り組むには、組織と情報システム双方における情報の生産・流通・利用過程の絡みを幅広い視点からとらえて、情報システムの設計と構築を論じる必要がある。

とくに、最近、ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）などにもない、情報システムに新しい使命が生じてきた。そこで本シンポジウムではこのような観点に立って今後の情報システム構築に対する方法論、具体的事例などについて、発表・討論を行う。

日時 平成6年12月1日（木）～2日（金）

場所 工学院大学 11階 第5会議室（東京都新宿区西新宿）

### トピックス

- ①ビジネス・プロセス・リエンジニアリング（BPR）のインパクト
- ②ライトサイジングにおける諸問題
- ③オープン化・オープンシステムの流れと取り組み
- ④EUCに対する情報システム部門と要員のあり方
- ⑤マルチメディアに向けた情報システムのあり方
- ⑥情報インフラストラクチャーの整備
- ⑦人材育成・教育  
など

### 実施方法

- (1) 応募する場合は、アブストラクト（A4判用紙1枚、書式任意）を平成6年7月15日（金）（必着）までに提出すること。
- (2) 採否の決定は、平成6年8月5日（金）までに連絡する。
- (3) 本論文は、原則として和文（1,548字詰研究会原稿用紙10枚以内）とし、平成6年10月14日（金）までに提出すること。
- (4) 採択論文は、論文集に収録する予定である。
- (5) 学術的な論文のみならず、経験事例の報告、問題提起、アイデアの提案などの論文も歓迎する。

### アブストラクト送付先

（社）情報処理学会 シンポジウム係

（7月15日まで）〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル 27階

Tel.(03) 5322-3535 Fax.(03) 5322-3534

（7月18日以降）〒108 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7階

### 問合せ先

日本経済新聞社 データバンク局 経済情報部 神田 茂（情報処理学会 情報システム研究会 幹事）

〒100-66 東京都千代田区大手町 1-9-5

Tel.(03) 5255-2409 Fax.(03) 5255-2715

# First Call for Papers

## ASP-DAC'95

Asia and South Pacific  
Design Automation Conference

## CHDL'95

IFIP Conference  
on Hardware Description Languages  
and their Applications

## VLSI'95

IFIP Conference  
on Very Large Scale Integration

with EDA Technofair'95

Aug. 29–Sept. 1, 1995

Nippon Convention Center, Makuhari, Chiba, JAPAN

IPJSJ KAIKOKU

### Sponsored by:

IEICE (Institute of Electronics, Information and  
Communication Engineers)  
IPJSJ (Information Processing Society of Japan)  
IFIP WG10.2, IFIP WG10.5  
IEEE Circuits and Systems Society  
IEEE Computer Society (Under negotiation)

### Supported by:

EIAJ (Electronics Industries Association, Japan)

### In cooperation with:

JIPC (The Japan Institute of Printed Circuit)

### Goals of the Conference:

The goal of the joint meeting of 1995 ASP-DAC/CHDL/VLSI is to provide a forum for presentation, discussion, and observation of the state-of-the-art of a wide range of CAD/DA/VLSI sciences and technologies. The format of the meeting is intended to cultivate and promote an instructive and productive interchange among not only CAD/DA/VLSI researchers and developers; vendors and users, but also a variety of those scientists, engineers, and students who are interested in theoretical issues on CAD/DA/VLSI.

### Scope of the Conference:

The emphasis of ASP-DAC'95 will be placed on Physical Design, Test Design, Synthesis, Manufacturing, Design Environments, Design Methodology, User-Oriented Topics, and Theoretical Aspects of CAD/DA.

The emphasis of CHDL'95 will be placed on Formal Methods, Verification, Hardware Description Languages, High-Level Synthesis, System Design, Simulation and Modeling, Design Frameworks and Design Environments.

The emphasis of VLSI'95 will be placed on the exchange of ideas on systems, circuits and device technologies to make stride up to the new century.

### Deadlines and Key Dates:

|                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| Submission of Manuscript:    | Feb. 24, 1995           |
| Notification of Acceptance:  | May 10, 1995            |
| Final Version of Manuscript: | Jun. 15, 1995           |
| Pre-Conference Tutorials:    | Aug. 29, 1995           |
| Conference Sessions:         | Aug. 30 - Sept. 1, 1995 |
| Publication:                 | Aug. 30 - Sept. 1, 1995 |

### Topics of Interest:

#### ASP-DAC'95

Physical Design, Test Design, Synthesis, Design Verification, Manufacturing, Design Environments, Design Methodology, User-Oriented Topics.

#### CHDL'95

Formal Methods, Verification, Hardware Description Languages, High-Level Synthesis, System-Level Design, Design Systems and Tools, Design Analysis and Test.

#### VLSI'95

VLSI Architecture, VLSI Applications, Design and Test Technology, Implications of New Technologies, Design Automation Tools.

### Submission of Papers:

Prospective authors are invited to submit to the Conference Secretariat 6 copies of a draft paper in English, which satisfies the following:

- (1) The cover page should specify [i] submission to ASP-DAC'95 or CHDL'95 or VLSI'95, [ii] title, [iii] authors and affiliation, [iv] mailing address, phone No., FAX No., and e-mail address of the contact author, [v] a brief abstract describing the work, [vi] at least three keywords which can specify typically the contents of the work.
- (2) The size of a sheet is A4 or 8.5" × 11", and the length should not exceed 20 pages excluding the cover page.
- (3) The technical expositions should be directed to a specialist and should include an introduction understandable to a non-specialist that describes the problem studied and the results achieved, focusing on the important ideas and their significance.

Any paper that deviates significantly from these guidances, or is not received by the dead line, risks rejection without consideration of its merits.

### Chairs:

|                       |                                                               |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------|
| <b>General Chair</b>  | Prof. Tatsuo Ohtsuki,<br>Waseda University, Japan             |
| <b>Program Chairs</b> |                                                               |
| <b>ASP-DAC'95:</b>    | Prof. Isao Shirakawa,<br>Osaka University, Japan              |
| <b>CHDL'95:</b>       | Prof. Steven D. Johnson,<br>Indiana University, U.S.A.        |
| <b>VLSI'95:</b>       | Prof. Wolfgang Rosenstiel,<br>University of Tübingen, Germany |

### Conference Secretariat:

ASP-DAC'95/CHDL'95/VLSI'95 Secretariat  
Business Center for Academic Societies Japan  
5-16-9 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo 113, JAPAN  
TEL: (03) 5814-5800 (81-3-5814-5800)  
FAX: (03) 5814-5823 (81-3-5814-5823)



## 第13回世界コンピュータ会議出席のおすすめ



第13回目にあたる IFIP Congress '94 が、本年8月28日～9月2日にドイツのハンブルグにおいて、IFIP（情報処理国際連合）とGI（ドイツ情報処理学会）で共催されます。

IFIP（International Federation for Information Processing）は、自由主義圏から共産圏、先進国から発展途上国まで約70カ国の情報処理に関する技術的専門団体が参加している国際的な連合組織です。UNESCOの後援で1959年6月、第1回情報処理国際会議がパリで開催された際に基本構成が決定され、翌1960年1月に正式発足しました。加盟は1カ国1団体が原則で、日本からは情報処理学会が加盟しています。1960年に情報処理学会が設立された目的の一つに、日本を代表してIFIPに加盟することがありました。

IFIPの活動の中の最も重要なものが、2～3年ごとに開催される世界コンピュータ会議です。第1回パリ大会以降各国で開催され、1980年には、東京で IFIP Congress '80 として当学会が主催し、世界各国から2,300名の参加を得て大きな成功を収め、1980年代の「情報処理技術の国際交流」へ大きな刺激を与えた実績があります。

今回の IFIP Congress '94は、従来とは大きく異なった非常に革新的なプログラム構成となっています。今回のコンGRESのテーマは、Computer and Communications Evolution - The Driving Forces で、今世紀末に向けてとるべき行動のメッセージを発信することに重点をおいています。従って、これまでの会議がパッシブな参加者を想定していたのに較べて、本会議では参加者のより積極的な関与を求め、参加者との意見交換を通して、今後とるべき行動指針としてのコンGRESメッセージを創り上げていくことを狙っています。

会議には、100件以上の招待講演、140件の論文発表をはじめ、講演者との質疑討論、チュートリアル、パネル、ワークショップ、会社訪問ならびに展示会も計画されています。特に冒頭に行われるキーノートセッションでは、一村一品運動やテクノポリス構想で著名な平松守彦大分県知事が、スピーカの一人に予定されています。

21世紀まで数年を残すのみとなった今、従来とは異なった形で運営される本コンGRESに参加されることは、来たるべき世紀に向けて、我々がとるべき方向を見据えるために大いに有益であり、大学等において教育・研究に携わる方々、企業トップの方を初め、ハードウェアやソフトウェアの技術者・研究者の皆様にとって裨益するところが誠に大きいと思われます。我が国からできるだけ多くの方々のご参加を期待しています。

参加の希望ならびに会議出席に関心のある方は、下記の担当までご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。

なお、参加申込は通常の国際会議と同様に、参加者から直接先方に行なって頂きますが、学会として日本からの参加者数を把握したいため、学会にも参加申込書の写しをお送りいただければ幸いです。

会議名：13th World Computer Congress(IFIP Congress'94)

期 日：1994年8月28日（日）～9月2日（金）

会 場：CCH：Congress Centrum Hamburg

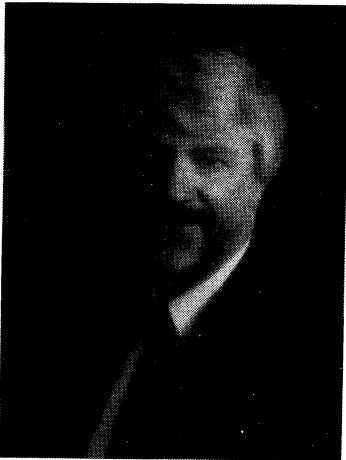
| 会議参加費：  | 6月1日まで | 6月1日以降 |
|---------|--------|--------|
| 一般      | 850DM  | 990DM  |
| 学生      | 300DM  | 385DM  |
| 一日のみ    | 420DM  | 495DM  |
| チュートリアル | 360DM  | 440DM  |
| 同伴者     | 100DM  | 100DM  |

DM：ドイツマルク（1ドイツマルク＝約62円）

問合せ先：（社）情報処理学会 国際担当 横山

〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階

Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534 e-mail:yokoyama@ipsj.or.jp



## Program Committee Chair Message

Dr. Ronald P. Uhlig

The program for the 13th World Computer Congress, IFIP '94, has been designed to be radically different from recent IFIP World Computer Congresses. You have a historic opportunity to influence the direction of computing and communications in this Congress. Recent IFIP World Computer Congresses were designed for more passive audiences. This Congress is a bold experiment to involve Congress participants directly in generating a number of focused messages to the computing and communications community, with recommendations concerning future directions. In other words, this Congress is designed to produce immediate results. If you want to participate in shaping the future of Computing and Communications, this Congress is for you.

The first part of the Congress will be in a more traditional style, with presentation of papers concerned with computing and communications foundations, technology, applications, and impacts five years from now, in the year 2000. More than 100 invited speakers and more than 140 submitted papers have been selected to lay the foundation for assessment of issues and generation of recommendations in the form of **action agendas** during the second half of the Congress. These action agendas will be the Congress Message – the results.

During the early World Computer Congresses, beginning in 1959, there was a high level of interaction among participants, and those participants did, in a very real sense, shape the future of computing. The explosion in computing technology during the 35 years since the first Congress has so enlarged the field that the general interaction which was a hallmark of the early Congresses, has significantly declined. The new format of this Congress is designed to restore the level of participant interaction, and to generate a new level of excitement among delegates.

The message or **action agendas** which will be developed by the Congress delegates, will be focused on nine specific issues, formulated as nine general questions which have no simple answers. These questions were designed to promote dialogue between the major topics of the congress: Foundations, Technology, Applications and Impacts of Computing and Communications technology. You are challenged to examine the issues discussed in this Advance Program and to answer for yourself, whether you would like to be a part of shaping the future by actively helping to develop one of the action agendas.

Monday, the first full day of the Congress, will begin with a keynote session featuring distinguished speakers from Europe, Japan and the USA, who will address the topic, **Impact of Investment Strategies on Computer and Communications Utilization**. Monday afternoon will feature addresses by Expert Speakers in each of the five main tracks. After their speeches, there will be an opportunity to meet with these experts in a series of small group sessions, with no more than 50 participants in each session. All day Tuesday and the first half of Wednesday have been reserved for presentations by invited speakers and for submitted papers in all tracks, and for a series of Workshops. Arrangements are also being made to allow interested participants to meet with experts and speakers over lunch.

Each of the Issue streams, which start Wednesday afternoon and continue through Thursday, will include invited and submitted paper sessions and a panel session. On Thursday afternoon, five hours have been set aside for development of the action agendas in groups of no more than 50 people. (If more than 50 people want to work on a particular issue, multiple groups will be formed for that issue).

All of the recommendations will be presented to all Congress participants in a plenary session on Friday, and will then be summarized as the Congress Message. These recommendations will be widely disseminated to the Computing and Communication Community after the Congress. It is hoped that there will be continuing activity on many of the issues.

You are invited to participate in the making of history in the 13th World Computer Congress – IFIP '94.

超並列アーキテクチャ、アルゴリズム、およびネットワークに関する国際シンポジウム  
論文募集

---

**International Symposium on Parallel Architectures,  
Algorithms, and Networks  
(ISPAN'94)**

December 14-16, 1994, Kanazawa, JAPAN

---

**CALL FOR PAPERS**

◆ **Scope of Symposium**

The 1994 International Symposium on Parallel Architectures, Algorithms, and Networks (ISPAN'94) is a forum for scientists, engineers and researchers throughout the world to exchange ideas and research results related to current developments and applications of parallel architectures, algorithms, and networks.

The symposium will include keynote addresses and invited/contributed papers. Several scholarships will be awarded to young researchers to attend and present papers at the Symposium. Topics of interest include (but not limited to) the following:

- |                             |                                                |
|-----------------------------|------------------------------------------------|
| 1. Parallel Architectures   | 6. Mapping and Scheduling Parallel Computation |
| 2. Parallel Algorithms      | 7. Fault Tolerance                             |
| 3. Hardware Algorithms      | 8. Network Embedding and Reliability           |
| 4. VLSI Network Design      | 9. Parallel Communications                     |
| 5. Interconnection Networks | 10. Massively Parallel Processing Systems      |

The ISPAN'94 will be held at Ishikawa High-Tech Conference Center on the campus of the Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST) on December 14-16, 1994. JAIST is the first national graduate school for the advancement of the frontiers of science and technology, and is located on the mountain hills in the town of Tatsunokuchi about 10 miles to the south of downtown KANAZAWA city. Kanazawa hosts numerous cultural events around the year. As one of the few well-preserved historical cities, it is often regarded as the hidden gem of Japan.

◆ **Submission Guidelines**

Authors are requested to submit five copies of their complete papers to

Professor Susumu Horiguchi  
Program Co-Chair of ISPAN'94  
Graduate School of Information Science  
Japan Advanced Institute of Science and Technology  
Tatsunokuchi, Ishikawa 923-12, JAPAN  
Tel: +81-761-51-1265  
FAX: +81-761-51-1135  
hori@jaist.ac.jp

or Professor D. Frank Hsu  
Program Co-Chair of ISPAN'94  
Department of Computer & Information Science  
Fordham University  
Bronx, NY 10458-5198, U.S.A.  
Tel: +1-718-817-4480  
Fax: +1-718-817-4925  
hsu@murray.fordham.edu

Submissions should be written in English, double-spaced, and no longer than twenty A4 (letter sized) pages. They should include an abstract and a list of at least five keywords, together with a cover page indicating the name, address, phone number, fax number, and e-mail address of one author who is responsible for all correspondence.

Proceedings of ISPAN'94 will be published by IEEE Computer Society Press.

◆ **Important Dates for Authors**

- |               |          |                                                       |
|---------------|----------|-------------------------------------------------------|
| (1) June      | 15, 1994 | Deadline for submission of papers                     |
| (2) August    | 9, 1994  | Notification of acceptance                            |
| (3) September | 9, 1994  | Camera Ready Manuscript (IEEE Computer Society press) |

◆ **General Chairman : Professor M. Kimura, JAIST**

◆ **Sponsored by Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST)**

◆ **In Cooperation with**

- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| • IEEE Computer Society | • IPSJ Computer Architecture |
| • IPSJ Algorithm        | • IEICE Computer System      |

## 支 部 だ よ り

## 東北支部 平成6年度電気関係学会東北支部連合大会

- 期 日 平成6年8月26日(金), 27日(土)  
 26日(金) 午前:一般講演・技術報告  
 午後:一般講演・技術報告, 特別講演 夜:懇親会  
 27日(土) 一般講演・技術報告
- 会 場 26日, 27日の両日, 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器他)  
 秋田大学鉾山学部キャンパス(〒010 秋田市手形学園町1-1, JR奥羽本線秋田駅よりタクシー約10分)  
 講演者は, 主催学会会員に限る。ただし, 連名の場合は会員外を含むことも差し支えない。講演時間は1件15分以内(討論時間を含む)とする。
- 講演内容 一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表  
 技術報告 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等, 特に現場に直結した実験研究の発表
- 申込方法 (1)「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600字」「原稿の書き方」と共に渡す。郵送希望の場合は1~2件…190円, 3~6件…270円, 7~13件…390円, 14件以上…700円分の切手を添えること。  
 (2)一般講演および技術報告の予稿集はオフセット印刷とするので, 必ず所定の原稿用紙を使用すること。  
 (3)申込件数の制限は1名2件までとする。ただし連名は差し支えない。  
 内容が著しく不適当と思われる場合講演を制限する場合がある。  
 (4)発表者は講演申込と同時に講演申込金として1件につき, 3,500円を添えて申込むこと。  
 (論文集代, 別刷50部代を含む)  
 (5)OHPを講演各室に準備する。(希望によりスライドも可)
- 申込・原稿締切日 6月24日(金) 必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする)
- 論 文 集 発表者には, 大会当日受付にて配布する。その他, 購入希望者は, 所要部数を早めに申し込むこと。  
 (1部 3,000円, 郵送希望の場合は, 郵送料1部 450円を添えること)
- 申込・問合先 〒980仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内  
 電気関係学会東北支部連合事務局 Tel. (022)222-1800(ext. 4312) 尾形
- 懇 親 会 日時・場所 8月26日(金) 18:00~20:00 秋田ターミナルホテル  
 会費 一般: 5,000円, 学生 3,000円(予定)  
 申し込みは当日大会会場で受付ます。
- 宿 泊 特に斡旋はしない。
- 主 催 電子情報通信学会・電気学会・日本音響学会・照明学会・テレビジョン学会・情報処理学会各東北支部

## 関西支部 数値解析研究会講演会

- 日 時 平成6年7月1日(金) 14:00~17:00
- 会 場 (財)関西情報センター 会議室(〒530 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階)
- 講 師 山本 哲朗氏(愛媛大学理学部教授)  
 演題: Durand-Kerner法をめぐって  
 矢川 元基氏(東京大学工学部教授)  
 演題: スーパーパラレルコンピューティングの2, 3の実例
- 参 加 費 無料
- 問合先 情報処理学会関西支部(〒530 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階 (財)関西情報センター内)  
 Tel. (06)346-2543

## 教官募集



### ○静岡県立大学経営情報学部

募集人員 助手1～2名

専門分野 1. 情報工学, 情報処理システム, 計算機応用, 経営工学, 経営統計学  
2. 経営学, 商学, 経営情報学およびその関連分野

応募資格 大学院博士課程もしくは修士課程修了かそれに準ずる30歳以下の方で, 上記専門分野1. はコンピュータ関係の実習補助とメンテナンス (UNIX 等) が可能な, また, 専門分野2. はコンピュータ関係の実習補助 (初級) の可能な方が望ましい。

着任時期 平成6年10月1日 但し, 上記専門分野2. は平成7年4月1日でも可

提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび現物かそのコピー, コンピュータ操作の実績, 経験, 教育に関する事項, 健康診断書, 推薦書 (自薦可)

応募締切 平成6年6月15日

送付先 〒422 静岡市谷田52-1 静岡県立大学経営情報学部人事委員会

問合せ先 経営情報学部 杉本徹雄 Tel. (054)264-5431

その他 静岡県内に居住できること

### ○山口大学情報処理センター

募集人員 講師1名

所属 LAN管理室

担当科目 ネットワークシステム, 本学ネットワークの管理と運営, LAN利用者の教育・啓蒙

専門分野 情報通信, ネットワーク工学

応募資格 博士号取得者かそれに準ずる30歳程度の方

着任時期 今年度のなるべく早い時期

提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 論文別刷, 研究・教育歴概要 (1000字程度), 健康診断書, 推薦書 (可能の場合)

応募締切 平成6年7月10日

送付先 〒755 宇部市常盤台2557

問合せ先 山口大学情報処理センター 小嶋直哉「教官応募書類在中」と朱書き書留  
Tel. (0836)35-9496, 35-9904(直通)

### ○山口大学工学部知能情報システム工学科

募集人員 教授1名

所属 応用システム工学大講座

担当科目 数理計画学, システム計画学

専門分野 システム工学, ORおよびその関連分野

応募資格 博士号取得者で大学院博士後期課程の指導が可能な50歳以上の方

着任時期 平成7年4月1日

提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 論文別刷をそれぞれ2部

応募締切 平成6年8月31日

送付先 〒755 宇部市常盤台2557

問合せ先 山口大学工学部知能情報システム工学科主任 山口静馬  
Tel. (0836)35-9481 Fax. 29-0053

# 雑 報



## ○通産省工業技術院試験研究所の研究者募集

募集人員 約30名  
 募集分野 化学, 物理, 電子, 機械等  
 応募資格 博士課程修了者または見込者(学位取得可能な者)かつ昭和36年4月2日以降生まれの者  
 給 与 243,900円基本額と諸手当  
 提出書類 履歴書, 修了・成績証明書, 修士および博士論文の要約, 研究業績等  
 公募締切 平成6年7月31日  
 採用予定日 平成7年4月1日  
 選考方法 8~9月上旬予備審査, 10月上旬の最終審査で候補者を決定  
 書類提出先 希望する研究所へ直接提出  
 その他 公務員宿舍, 有給・夏季休暇あり  
 連絡先 〒305 つくば市東 1-1-4 筑波研究支援総合事務所 研究企画調整官室  
 Tel. (0298)54-2170~2 Fax. (0298)55-3833

## ○1994年 C&C 賞候補者推薦のお願い

C & C 振興財団は, 情報処理技術と通信技術の融合する分野(C & C 分野)における開拓活動および研究活動に対する奨励および助成を通じて, エレクトロニクス産業の一層の発展を図るために, 1985年3月に設立された財団法人であります。その事業の一つとして, C & C 分野の開拓または研究に関する功労者に対してC & C 賞を贈呈いたします。本年度は, 10回目であります。顕彰は毎年1回2件以内として, 各受賞者には賞状, 賞牌と賞金(1件当たり原則として1千万円)を贈呈いたします。

つきましては, 1994年C & C 賞の候補者をご推薦いただきたく, お願い申し上げる次第です。推薦要領をご参照のうえ, 推薦書にご記入いただき, 来る 5月27日(金)までに本財団に届くようご返送方お願いいたします。

### 推薦要領, 推薦書請求および送付先

〒108-01 東京都港区芝 5-7-1 日本電気本社ビル内 (財)C & C 振興財団  
 Tel. (03)3457-7711 Fax. (03)3798-6599

## ○平成6年度前期 (財)国際コミュニケーション基金の助成・援助募集

対 象 国際通信の普及・発展と国際間のコミュニケーションの促進を図り, 世界の調和ある健全な発展に寄与することを目的とし, 次の事業にたいし, 助成・援助を行います。

### I. 調査研究助成

### II. 国際会議開催助成

### III. 国際会議参加助成

### IV. 社会的・文化的諸活動助成

平成6年10月から平成8年3月末迄に開催実施, および参加のものを対象とします。ただし, I については後期のみとします。なお, 本年度から後期の受付時期が, 11月から10月になりますので, ご注意下さい。

助 成・  
 援助金額

### I. 1件あたり100~1,000万円程度。

### II. 1件あたり最高300万円まで。

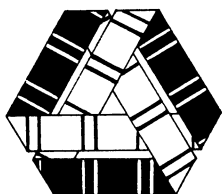
### III. 海外で開催される国際会議への日本からの参加者または日本で開催される国際会議への海外からの参加者とし, 1名あたり最高50万円まで。

### IV. 1件あたり最高200万円まで。

申込期間 平成6年5月2日(月)~5月31日(火)まで

問合せ先 〒163-03 東京都新宿区西新宿 2-3-2 (財)国際コミュニケーション基金  
 Tel. (03)3347-7094

## 会議案内



各会議のコードは、整理番号です（\*：本年既掲載分、\*\*：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手90円を同封のうえ、請求ください。

（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日 2. 会場 3. 問合せ先 4. その他

## 国際会議

### 6th Transputer/occam Int'l.

(\*\*014)

- 1994年6月14日（火）～17日（金）
- 東京都立大学（八王子市）
- 主催：World occam Transputer Users Group/Japan  
問合せ先：東大工学部電子情報工学科 石塚 満  
Tel. (03)3812-2111(ext.6347) Fax. (03)5802-2990  
e-mail:ishizuka@miv.t.u-tokyo.ac.jp

### 4th European Conf. on Software Quality

(019)

- October 17-20, 1994
- Basel, Switzerland
- SAQ-Geschäftsstelle, P.O.Box, CH-4603 Olten, Switzerland  
Phone:++41 62 329 329 Fax. ++41 62 329 330

## 国内会議

### 第206回講習会「不況を吹き飛ばす巨大市場開拓」

- 平成6年6月30日（木）
- 機械振興会館（東京都港区芝公園）
- （社）精密工学会  
Tel. (03)3362-1979 Fax. (03)3367-0994
- 申込締切：平成6年6月28日（火）

### 第6回テクニカルコミュニケーションシンポジウム

- 1994年8月25日（木）～26日（金）
- 工学院大学（東京都新宿区）
- テクニカルコミュニケーション協会 TCシンポジウム実行委員会広報担当 欧文印刷 土肥 弘子  
Tel. (03)3817-5975 Fax. (03)3814-4787
- 参加費（予定）：会員 15,000円 非会員 20,000円  
学生 3,000円

### 第9回生体・生理工学シンポジウム

- 平成6年11月29日（火）～12月1日（木）
- 工業技術院共用講堂（茨城県つくば市東）
- （社）計測自動制御学会  
Tel. (03)3814-4121 Fax. (03)3814-4699
- 申込締切：平成6年6月30日（木）

### 第24回 Japan SIGAda

- 1994年7月15日（金）
- NTT データ通信㈱芝Aビル（東京都港区芝）
- Japan SIGAda運営委員会  
NTT アドバンステクノロジー㈱教育リサーチセンタ  
田中 清 Tel. (0422)49-1441

### 光学連合シンポジウム浜松 '94 - JAPAN OPTICS '94

- 1994年9月22日（木）～9月23日（金）
- クリエート浜松（静岡県浜松市早馬）
- 主催：日本光学会（応用物理学会）  
問合せ先：日本電気㈱研究開発グループ 西田 信夫  
Tel. (044)856-2104 Fax. (044)856-2397
- 講演申込締切：1994年7月4日（月）

### 第25回人工知能セミナー「プラント事業におけるAI技術、その現状と展望」

- 1994年7月12日（火）
- 日本ユニシス㈱赤坂ビル（東京都港区）
- （社）人工知能学会事務局  
Tel. (03)5261-3401 Fax. (03)5261-3402
- 参加費：会員 18,000円 非会員 30,000円 学生 6,000円

### 日本神経回路学会第5回全国大会 - JNNS '94

- 1994年11月8日（火）～11日（金）
- 工業技術院つくば共用講堂（茨城県つくば市東）
- 日本電気㈱基礎研究所内 JNNS '94つくば大会運営委員会事務局  
Tel. (0298)50-1115 Fax. (0298)56-6136  
e-mail:fujiiwara@tgn.cl.nec.co.jp
- 講演申込締切：1994年7月31日（日）

### Computer Graphics Osaka '94

- 1994年6月22日（水）～24日（金）
- マイドームおおさか 他
- （社）日本能率協会関西地域本部内 CG Osaka '94 事務局  
Tel. (06)261-7151 Fax. (06)261-5852
- 入場料：1,500円

### 平成6年度第1回ORセミナー「多変量データの解析」

- 1994年6月24日（金）
- 東京ガス本社（東京都港区海岸）
- （社）日本オペレーションズ・リサーチ学会  
Tel. (03)3815-3351
- 参加費：会員 22,000円 学生会員 5,000円 非会員 30,000円

### 講習会「脳・心・コンピュータ」

- 1994年7月20日（水）～22日（金）
- 社会文化会館（東京都千代田区永田町）
- （社）日本物理学会講習会係 Tel. (03)3434-2671
- 聴講料：一般 15,000円 会員 10,000円 学生 4,000円

### 第19回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心にして」

- 1994年6月9日（木）～10日（金）
- 東京大学生産技術研究所（東京都港区六本木）
- 主催：日本光学会（応用物理学会）  
問合せ先：コニカ㈱オプト事業部光学開発センター  
中野 智史 Tel. (0426)42-0161 Fax. (0426)44-5212
- 参加費：会員 4,500円 学生 2,000円 一般 5,000円

**第5回オプトエレクトロニクスコンファレンス(OEC'94)**

1. 1994年7月13日(水)～15日(金)
2. 幕張メッセ(千葉市中瀬)
3. (財)日本学術事務センター内 OEC事務局  
Tel. (03)5814-5800 Fax. (03)5814-5823
4. 参加費: 一般 30,000円 学生 6,000円

**第37回自動制御連合講演会**

1. 1994年11月16日(水)～18日(金)
2. 大阪府教育会館(大阪市天王寺区)
3. システム制御情報学会  
Tel. (075)751-6413 Fax. (075)751-6037

**第31回サマーセミナー(1994年)「マルチメディア時代における光技術の役割」**

1. 平成6年8月24日(水)～26日(金)
2. 浜名荘(静岡県浜名郡舞阪町)
3. 応用物理学会内 日本光学会セミナー係  
Tel. (03)3238-1043
4. 申込締切: 平成6年6月30日

**カラーフォーラム JAPAN'94(第11回色彩工学コンファレンス)**

1. 1994年10月26日(水)～28日(金)
2. 工学院大学(東京都新宿区西新宿)
3. 連企画気付 カラーフォーラム J A P A N事務局  
Tel. (03)3433-2543 Fax. (03)3433-3904
4. 講演申込締切: 1994年7月26日(火)

**平成6年電気・情報関連学会連合大会の開催予告**

平成6年電気・情報関連学会連合大会を下記のとおり開催いたしますので、多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。なお、詳細な開催および論文集予約のご案内は学会誌6月号に掲載します。

|                  |                                                                                               |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 期              | 平成6年8月30日(火)～31日(水)                                                                           |
| 会 場              | 工学院大学(東京都新宿区西新宿1-24-2)                                                                        |
| 統一テーマ            | 環境・福祉・情報と未来社会 —技術の融合とインテリジェント化—                                                               |
| 特別講演             | 30日(火)午後1時30～3時10分「脳の情報処理」 講師 養老 孟司(東大)                                                       |
| 日本学術会議<br>シンポジウム | 30日(火)午後3時20～5時50分「情報技術の将来像」 司会 堂下 修司(京大)<br>講師 田中 英彦(東大), 和田 英一(富士通研), 大須賀節雄(東大), 辻 三郎(阪大)   |
| 講演テーマ            | 下記の3つのテーマに基づき、24の講演が行われる予定です。<br>「環境と情報」「福祉と情報」「21世紀の技術展望」                                    |
| 大会参加費            | 会員 2,000円 学生 1,000円(大学修士まで) 会員外 3,000円                                                        |
| 講演論文集            | オフセット印刷により講演論文集を出版し、予約販売および会場販売をします。<br>価格 全1冊 10,000円(ただし大会参加の学生は 2,000円)                    |
| 懇 親 会            | 8月30日(火)午後6時～8時<br>「工学院大学生協食堂」(中層棟7階)<br>一般 4,000円 学生 2,000円                                  |
| 問合せ先             | (社)情報処理学会 連合大会係<br>〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27階<br>Tel. (03)5322-3535 Fax. (03)5322-3534 |
| 主 催              | 情報処理学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, テレビジョン学会                                                        |

## 学会事務局（本部）の移転について

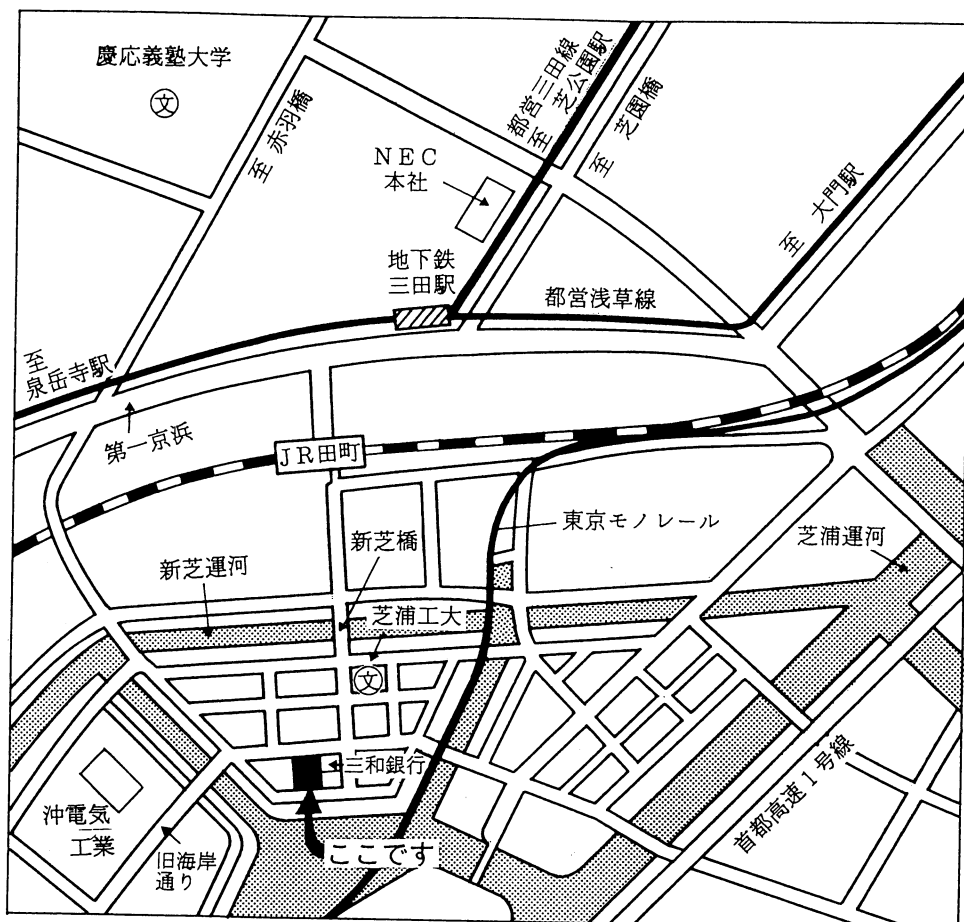
会員の皆さま方の学会活動への深いご理解とご支援を得て、当学会は活動を活発に行ってまいりましたが、バブルのはじけた現在の不況下、会員数の伸びが止まり、かつ、減少ぎみとなってまいりました。それに加え、事務所の賃借料等の負担が大きく、学会の健全なる経営がむずかしくなってきましたので、賃借料等の負担の少ない事務所へ事務局本部（会員、編集、事業、研究会、国際、総務）を下記により移転することといたしましたのでご案内申し上げます。

なお、情報規格調査会（規格部）は現状どおり機械振興会館にて業務を行っております。

### 記

1. 移 転 先 〒108 東京都港区芝浦三丁目16番20号 芝浦前川ビル7階  
Tel. (03)5484-3535 Fax. (03)5484-3534
2. 開設予定日 平成6年7月18日(月)
3. 交 通 J R田町駅東口から徒歩5分、または地下鉄三田駅（都営三田線、浅草線）から徒歩7分（地図参照）
4. 会 議 室 新事務所は現事務所の1.5倍の広さがあり、大きい会議室が確保でき、学会が行う大部分の行事がここで開催できます。
5. そ の 他 詳細は決まり次第学会誌にて順次、会告いたします。

以 上



## 機関誌原稿執筆案内等の改訂について

学会誌編集委員会  
論文誌編集委員会

情報処理学会ではかねてから論文誌関係を中心に機関誌原稿執筆案内の見直し作業を行ってきましたが、このほど学会誌編集委員会および論文誌編集委員会でまとまり、6月1日から実施することとしました。改訂後の執筆案内は巻末に掲載しておりますのでご参照ください。主要な変更箇所はつぎのとおりです。

### 1. 「情報処理」関係

- (1) 投稿形式をフロッピーディスク、電子メールおよび手書きの3種とした。
- (2) 記事種目を整理した。
- (3) 依頼記事のページ数を、原則6ページに縮小した。

### 2. 「情報処理学会論文誌」関係

- (1) 研究あるいは開発成果発表の最終形態は学術雑誌の論文であると位置づけ、本学会の主催・共催を問わず、学術雑誌の論文以外の発表は、すべて途中経過報告とみなし、既発表論文とみなさないこととした。
  - (2) ショートノートの性格を明確にした。それに伴い、テクニカルノートと名前を変更した。
  - (3) 誌上討論は、掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答に限ることとした。
  - (4) 二重投稿を、陽に、認めないこととした。
- これに伴い、論文査読手引きなども改訂した。

以 上

## ~~~~~

### 本会名を使った勧誘にご注意ください

最近本会の名称を無断で使用し、物品・会員権の販売、セミナー等会合への勧誘が横行しております。相手先の判明したものについては厳重抗議いたしておりますが、会員各位におかれましても被害にあわないよう、十分にご注意ください。

なお、本会では会員データ・会員名簿の管理・取扱いは厳正・厳重に行っております。また、本会が主催・共催・協賛した行事等については、必ず学会誌会告にてお知らせいたします。

[事務局長 飯塚 浩司]

## 編集室



### ・事務局だより

平成6年度が始まって半月が過ぎ、事務局も総務と経理が平成5年度の事業報告書作成と決算処理を作業している以外は、4月号でお知らせした組織・職員により、すべて新年度の事業に入りました。学会誌の広告は4月号から、事務局編集学会誌係を窓口とする直営の募集・掲載としましたが、刷り上がりは如何でしょうか。残念なのは準備不足などもあり目標のページ数に達しなかったことですが、元役員にもお願いして外資系のソフト会社など、ご紹介先の素人セールスも少し始めたところです。これからも広告の増加について、会員各位のご支援をお願いする次第です。

今月号の会告36ページに概要を掲載してありますように、学会事務局所を本年7月16日～17日（予定）にエスデック情報ビル（西新宿）から芝浦前川ビル（田町駅東口徒歩5分）に移転することが3月理事会で決定し、5月20日の総会議題とすることになりました。引越して2年足らずで、また、移転することについてはご意見もあると存じますが、この最大の理由は学会収支の健全化をはかり、学会活動活性化の資金を生み出すことにありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

（1994. 4. 15 飯塚浩司）



## 会費・購読費の預金口座自動振替をぜひご利用ください

希望される正会員（学生会員は対象としません）は、下記記載事項をご確認のうえ、預金口座振替依頼書に必要事項をご記入いただき、お申込みくださるようお願いいたします。

なお、新入会時の入会金・会費・購読費にはご利用できませんが、翌年度会費・購読費から取扱いますので、入会手続きの際に同時にお申込みください。

### 記

1. 対象会員：正会員（一括扱い会員は除く）
2. 対象金融機関：都市銀行，地方銀行，信託銀行，長期信用銀行，信用金庫，労働金庫（信用組合，郵便局，農協は除きます）
3. 口座振替費目：正会員費・論文誌購読費
4. 振替日：3月，または7月の27日（休日の場合は翌営業日）に年額を振替させていただきます。
5. 依頼書の記入要領
  - (1) 口座名義人：預金通帳の名義人です。フリガナもご記入ください。
  - (2) 銀行への：必ず預金通帳とご照合のうえ，鮮明にご捺印ください。また，捺印を必ずご捺印ください。  
お届け印
  - (3) 会員番号：会員番号（学会誌等送付用封筒の宛名ラベルに記載）および会員の氏名を記入してください。  
会員氏名：
  - (4) 指定口座：金融機関名，支店名，店番号，種目（普通・当座），口座番号等は，必ず預金通帳にてご確認のうえご記入ください。
6. 預金通帳の摘要欄：「ダイヤモンドファクター」，「コウザフリカエ」または「DF・ジョウショカイヒ」と印字されます。
7. 申込み，問合せ先：（社）情報処理学会 会員係  
〒160 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F  
Tel. (03)5322-3535

預金口座振替依頼書

銀行 御中  
金庫

平成 年 月 日

収納代行会社名：ダイヤモンドファクター株式会社  
委託者名：社団法人 情報処理学会

料金等の種類：会費・購読費

|       |           |       |       |
|-------|-----------|-------|-------|
| 委託者番号 | 0 3 4 5 0 | 契約者番号 | 0 1 5 |
|-------|-----------|-------|-------|

ご指定口座（記入要領によりご記入ください）

|                                                         |          |     |       |
|---------------------------------------------------------|----------|-----|-------|
| (左つめて記入し、濁点、半濁点は1字分に扱ってください。なお、個人名義の場合、姓と名の間は1字空けてください) |          |     |       |
| フリガナ                                                    |          |     |       |
| 口座名義人                                                   | 銀行へのお届け印 |     |       |
| 会員番号                                                    | 会員氏名     |     |       |
|                                                         |          |     |       |
| 指<br>定<br>口<br>座                                        | 銀行番号     | 店番号 | 預金種目  |
|                                                         |          |     | 1. 普通 |
|                                                         |          |     | 2. 当座 |
|                                                         | 口座番号     |     |       |

振替日：収納企業の指定する日（銀行休業日の場合は翌営業日）

私は上記の料金を預金口座振替の方法により収納代行会社ダイヤモンドファクター株式会社を通じて支払うこととしましたので、下記事項を承認のうえ上記口座からの振替を依頼します。

記

- ダイヤモンドファクター(株)より貴行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、振替日に私あてに通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえお支払いください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳・同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
- 振替日において、請求書記載金額が預金口座から払い戻すことのできる金額をこえるときは、私に通知することなく請求書を返却されても差し支えありません。
- この預金口座振替契約は貴行（金庫・組合）が必要と認めた場合は私に通知することなく解約されても異議ありません。
- この預金口座振替についてかりに疑義が生じても、貴行（金庫・組合）の責によるものを除き、貴行（金庫・組合）にはご迷惑をかけません。

金融機関使用欄

口座振替依頼書に不備がございましたら下記へご返却ください

|                  |             |       |
|------------------|-------------|-------|
| 返<br>却<br>理<br>由 | 1.預金取引なし    | 4.その他 |
|                  | 2.記載事項等相違   |       |
|                  | ( 店名,預金種目 ) | ( )   |
|                  | 3.印鑑相違      |       |

|     |     |  |
|-----|-----|--|
| 照 合 | 受 付 |  |
|     |     |  |

〒101 東京都千代田区神田佐久間町1-10

ダイヤモンドファクター株式会社 ワイドネット事業本部

# 情報処理学会機関誌原稿執筆案内

\*1984年12月改訂  
1986年12月改訂  
1988年3月改訂  
1990年3月改訂  
1991年3月改訂  
1992年9月改訂  
1994年4月改訂

学会は学会誌「情報処理」、論文誌「情報処理学会論文誌」の2種類の機関誌を発行している。学会誌「情報処理」はしい技術動向をはじめとする種々の情報を掲載し、会員の知識の向上をはかるものであり、論文誌は会員の研究発表場である。

本案内は学会機関誌の原稿執筆要領をまとめたものである。執筆上の手引きとして利用していただきたい。

## 1. 学会誌「情報処理」原稿執筆案内

### 1. 1 学会誌の目的

学会誌「情報処理」は

- (1) 会員の知識の向上に資すること、
  - (2) 本学会の活動を報告し、会員各位の学会活動への参画意識を高めること、
  - (3) 会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供すること、
  - (4) 学会の行事、ニュース、各種情報の要約等を提供すること、
- 目的としている。

とくに、(1)の目的のために、次の方針で編集を行う。

- (1) 学会誌としてのレベル、および客観性を保ちながら、思い切り読みやすく分かりやすい記述を追求する。
- (2) 先進的分野、または特定分野の横断的な解説記事を企画し、対象となる読者層を明らかにして編集を行う。
- (3) 会員に興味のある時宜にあったテーマをよりタイムリに掲載する。

### 1. 2 記事種目

学会誌「情報処理」には前項の目的を達成するため、1表に示す記事種目を設けている。

記事種目には、学会誌編集委員会が依頼する依頼記事1. 2. 2項に掲げた投稿記事がある。

#### 1. 2. 1 依頼記事

(1) 学会誌編集委員会が依頼原稿の種目ごとに標題などを決定し執筆を依頼する。依頼ページ数はそのとき指定する。

(2) 執筆構想(目次案)ができた段階で著者と協議することがある。

(3) 依頼原稿の体裁と書き方は、1. 3項を参考とした書き方とする。

(4) 依頼原稿は学会誌編集委員会で閲読し、著者に照会、修正を依頼する場合がある。

#### 1. 2. 2 投稿記事

学会誌掲載記事に対する意見、取り上げるべきテーマの提案または学会員に関心があると思われる行事、技術の報告など会員各位の積極的な投稿をお願いする。

- (1) 投稿、提案者は原則として本学会会員に限る。
- (2) 投稿、提案の種目(第1表参照)を明記すること。提案の場合は提案の趣旨を書き添えること、執筆候補者を付記してもよい。
- (3) 投稿する原稿の体裁と書き方は、1. 3項を参考とした書き方とする。ただし、梗概は不要である。
- (4) 投稿原稿は学会誌編集委員会または文献ニュース小委員会で査読し、著者に照会、修正を依頼する場合がある。
- (5) 投稿、提案内容の採否については学会誌編集委員会または文献ニュース小委員会が判断する。

#### 1. 3 原稿の体裁と書き方

印字原稿および手書き原稿は、次の(1)～(8)の順に整える。各番号別に必ず別用紙とすること。((1)～(8)でオリジナル原稿一式とする)。なお、原稿の作成は22字/行にて作成する。

- (1) 標 題：できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。
- (2) 著者名・所属：氏名、所属を日英両文で書く。所属は、大学・学部・学科のように3項目で表記する。また、会員・非会員の別、著者連絡先(住所、電話番号)、Fax、e-mail等。複数著者の場合は連絡担当者に\*印を付すこと)を用紙の下部に明記すること。
- (3) 本 文：不必要に長い記述を避け、要点を簡潔に伝えるように書くことが望ましい。結果を示す数式には文章による解釈を付記した方が読者には理解しやすい。

以下に注意事項を記す。

- 1) 大見出しは2行どりとする。

- 2) 数字，ローマ字，ギリシャ文字，記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字，上つき・下つきの別， $\times$  (かける) と  $\times$  (エックス) の別など。
- 3) 句読点は“.” および “,” を用い，それぞれ 1 画 (1 字分) を用いる。
- 4) 数式は印刷に便利よう注意する。文中に式を挿入する場合には  $a/b$ ,  $\exp(t/r)$  のような記法を用いる。  
独立した数式は 1 行につき 2 行または 3 行のスペースをとって書く。数式も文の一種であるから，原則として末尾に “,” または “.” を付す。ただし，プログラム言語の形式を利用する場合には，この限りではない。
- 5) 本文中，または図・表中の変数は斜体で記載する。
- 6) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。
- 7) 脚注は，該当箇所に <脚注 1> <脚注 2> のように < > で囲み，本文の最後にまとめて記述する。
- 8) 文中の記号で太字を使用の場合は，その記号の下に ~ を朱書し，イタリック (斜体) 使用の場合はその文字の下に朱書で  $\sim$  と指定する。
- 9) 専門用語については，簡単な用語説明を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。
- 10) 用語は原則として「文部省学術用語集」および「情報処理ハンドブック」を参考とする。

(4) 謝 辞：謝辞もできるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。

(5) 参考文献：内容に直接関係のある重要な参考文献には必ず言及すること。以下に選択のためのガイドラインを示す。1) から順に選択することとし，必要なものに止めること (特に必要なものを除いて 10 編程度)。

- 1) 本文を執筆する上で直接に参照および引用した文献
- 2) 本文内で直接に参照した事項に関する文献
- 3) 読者が直接的に，あるいは執筆者などを通して間接的に入手できる文献
- 4) 内容の信頼性を保ち，それがその分野などで公知である文献
- 5) 読者が本文の内容をより理解するために手助けとなる文献

これら文献に関連のある本文中の箇所には，[1] [2] のように [ ] で参考文献番号を挟み，末尾にその文献を参照順にまとめて記述する。

また，参考文献は原則として，雑誌の場合には，著者，標題，雑誌名，巻，号，ページ，発行年をこの順に記す。

[例]

1) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol.1, No.1, pp.6-10(1960)。

2) Feldman, J. and Gries, D. : Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp. 77-113(1968)。

単行本の場合には，著者，書名，総ページ数，(必要ならば) ページ，発行所，発行年を，この順に記す。

[例]

3) 大山一夫：電子計算機，300 p., 情報出版，東京 (1991)。

4) Wilkes, M. V. : Time Sharing Computer Systems, 200p., McDonald, NewYork (1990)。

(6) 付 録：長い数式の誘導の過程や，実験装置，計算機についての説明などの詳細が必要な場合，これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので，付録にする方がよい。

(7) 図 (モノクロ写真およびカラー写真を含む) : 図-1 のような通し番号と名称を和文または英文でつける。刷上り寸法は横幅 70 mm または 150 mm とし，高さは最大 217 mm とする。刷上り寸法の 2~3 倍大にきれいに書き，文字，記号などは印刷時に縮小されることを考慮して大きめに書くこと。図は本学会でトレースする場合があるので，鉛筆書きでもよいが，トレースしにくい図は避けること。

(8) 表：表-1 のような通し番号と名称を和文または英文でつける。刷上り寸法は横幅 70mm または 150mm とし，高さは最大 217 mm とする。刷上り寸法の 2~3 倍大にきれいに書き，文字，記号などは明瞭に記入する。

なお，図・表の希望位置は印字原稿または原稿用紙上に赤字で指示すること。紙面の都合上希望どおりにいかない場合もある。また，カラーの写真・図などは経費の関係上同一ページにまとめる。

## 1. 4 原稿の提出

### 1. 4. 1 原稿の提出方法

原稿の提出にあたっては次の 3 方法から選択する。

#### (1) 3. 5 インチフロッピディスクによる提出

1. 3 項による印字原稿と，そのブレンテキストが入った MS-DOS または Macintosh で作成されたテキスト形式の 3.5 インチフロッピディスクを併せて提出する。その際，使用したハードウェアをラベルに明記すること (フロッピは希望がない限り返却しない)。

ただし，MS-DOS の場合は

1) 文字コードは JIS コードまたはシフト JIS とする。

2) 3.5 インチフロッピディスクの媒体は，以下のと

学会誌別刷価格表 (単位：円)

| ページ<br>部数 | 1~4   | 5~6   | 7~8   | 9~10  | 11~12  | 13~14  | 15~16  | 17~18  | 表紙不要<br>の場合 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 100       | 6,000 | 7,000 | 8,000 | 9,000 | 10,000 | 11,000 | 12,000 | 13,000 | -1,100      |

おりとする。

a) IBM-PC類：2DD (720KB) あるいは  
2HD(1.44 MB)のいずれでも可。

b) NEC-PC類：2DD (640KB) あるいは  
2HD (1.2 MB)

2) e-mail (インターネット) による提出

1. 3項による印字原稿を提出するとともに、そのブ  
レーンテキストをe-mailにて提出する。e-mailで提出  
するテキストはJISコードとする。

3) 手書原稿による提出

本学会所定の原稿用紙に記述して提出する。ただし、  
依頼原稿の場合は本学会事務局に請求し、投稿原稿の  
場合はこれを購入する。

4. 2 原稿の送付先

原稿用紙の購入先、原稿、提案の送付先、および問合  
せ先は次のとおりである。

7月15日まで：

〒160 東京都新宿区西新宿 1-24-1

エステック情報ビル27階

(社) 情報処理学会 学会誌編集係

Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

7月18日以降：

〒108 東京都港区芝浦 3-16-20

芝浦前川ビル 7階

(社) 情報処理学会 学会誌編集係

Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

1. 5 そ の 他

(1) コピー：郵送中の紛失事故対策や照会の便宜など  
のため、原稿のコピーは必ず手元にとっておくこと。

(2) 正誤：著者から正誤の申し出があった場合、正誤  
表を最近号に掲載する。

(3) 著者紹介：必要な場合には200字程度の著者紹介  
と写真一葉を依頼する。

(4) 別刷：依頼原稿の著者は原稿校正時に別刷を注文  
することができる。投稿原稿の著者は掲載時に別刷  
100部を購入していただく。別刷料金は以下のとおり。  
カラー掲載の場合は実費をいただく。

(5) 原稿料：依頼原稿の原稿料は別途定める。

(6) 図・写真などを引用する場合は、その所有者に必  
ず了解を得た上で、その出典を明記すること。

第1表 学会誌「情報処理」の記事項目

<記事掲載順による>

| 記事種目                  | 内 容                                    | 依頼<br>記事 | 投稿<br>記事 | 刷上<br>標準<br>頁 | 総字数<br>*        |
|-----------------------|----------------------------------------|----------|----------|---------------|-----------------|
| (1) 巻頭言               | 本学会の会長や理事などの抱負、所感                      | ○        |          | 1             | 1,936           |
| (2) 特別論説<br>「情報処理最前線」 | 学会、産業界における最近のホットな話題をやさしく<br>解説したもの     | ○        |          | 6             | 11,616          |
| (3) 解説                | 新しい技術の動向などについて一般の会員を対象として<br>平易に解説したもの | ○        | 6        |               | 11,616          |
| (4) 展望                | 新しい理論、技術などの展望を比較的専門の立場から論<br>説したもの     | ○        |          | 6             | 11,616          |
| (5) 講座                | 定説となっている基礎的な問題について平易に系統的に<br>解説したもの    | ○        | 6        |               | 11,616          |
| (6) 論説                | 社会的な視野からみた情報処理に関する論説や主張                |          | ○        | 4             | 7,744           |
| (7) 寄書                | 情報処理に関する理論、技術、動向など会員が関心をも<br>つ事項の論説や主張 |          | ○        | 4             | 7,744           |
| (8) 報告                | 総合的なプロジェクトや国内外の会議、活動状況の報告              | ○        | ○        | 6             | 11,616          |
| (9) 講演                | 本学会が主催した講演の要旨                          | ○        |          | 6             | 11,616          |
| (10) 座談会              | 学会誌編集委員会が企画した座談会の要約                    | ○        |          | 6             | 11,616          |
| (11) 会員の声             | 本学会および学会誌に対する会員からの意見                   |          | ○        | 0.5           | 968             |
| (12) 談話室              | 経験談、提案、批判、誌上討論など                       |          | ○        | 2～4           | 3,872<br>～7,744 |
| (13) 研究室紹介            | 大学、研究所などの研究活動の紹介                       |          | ○        | 3             | 5,808           |
| (14) 書評               | 文献ニュース小委員会が選定した図書の紹介および批評              | ○        | ○        | 1             | 1,936           |
| (15) 文献紹介             | ク 海外文献の概要紹介                            | ○        |          | 1             | 1,936           |
| (16) ニュース             | ク ニュース                                 | ○        | ○        | 0.5           | 968             |
| (17) 図書寄贈一覧           |                                        | ○        |          | 0.5           | 968             |
| (18) 論文誌アブ<br>ストラクト   | 論文誌に掲載された論文、ショートノートの和文また<br>は英文アブストラクト | ○        |          | 0.3           | 581             |
| (19) 情報技術標<br>準化のページ  | 情報技術に関する国際標準化の進展状況報告                   | ○        |          | 1             | 1,936           |
| (20) 本会記事             | 理事会、各種委員会の報告など                         |          |          |               |                 |
| (21) 会告               | 学会からのお知らせ、行事案内、会議案内、教官募集<br>など         |          |          |               |                 |

\*タイトル、図表などすべてを含めた字数  
(タイトル・著者名で374字とする。)

## 2. 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内

### 2. 1 論文誌発行の目的

論文誌は会員の研究成果の発表およびこれに関連する討論の場を提供するために刊行される。

### 2. 2 論文誌の掲載記事

(1) 論文誌の記事は会員が自発的に執筆し投稿するもので、論文、テクニカルノートおよび誌上討論の3種類がある。

#### 論文

学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。

#### テクニカルノート

新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。

#### 誌上討論

掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。

(2) 学術雑誌に投稿中または採択された論文と内容が同一の投稿原稿は採録しない。ただし、本論文誌に採択されたテクニカルノートをもとに発展、充実させたものはその限りではない。

(3) 投稿者は原則として本学会会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも1名は本学会会員でなければならない。

(4) 掲載記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。

### 2. 3 投稿手続

(1) 投稿原稿は日本語あるいは英語で、第1表に示す刷上標準ページ数に収まるように記述することが望ましい。

(2) 投稿原稿の形式は、「論文投稿形式」に従わなければならない。ただし、誌上討論に関しては形式は自由とする。

(3) 投稿原稿が所定の体裁に整っておれば、受付日と受付番号を付した原稿受領書を発行する。投稿原稿の問合せなどは、以後、この受付番号で行うものとする。

(4) 原稿の送付先および問合せ先は下記の学会事務局とする。

7月15日まで：

〒160 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号  
エステック情報ビル 27階

(社) 情報処理学会 論文誌係

Tel.(03)5322-3535 Fax.(03)5322-3534

7月18日以降：

〒108 東京都港区芝浦三丁目16番20号

芝浦前川ビル 7階

(社) 情報処理学会 論文誌係

Tel.(03)5484-3535 Fax.(03)5484-3534

### 2. 4 投稿原稿の取り扱い

(1) 論文誌への掲載は論文誌編集委員会で決定し、その採否を投稿者に通知する。

(2) 論文とテクニカルノートは、査読委員による審査過程を経る。論文の場合、著者に照会し回答を求めたうえで、改めて審査を行い採否を決定することがある。

(3) 採録が決定した論文、テクニカルノートは、委員会翌月の学会誌上にその旨を発表する。また、論文誌に掲載する際には、末尾に、原稿受付日及び採録決定日を付記する。

(4) 照会は、部分的に論旨が不明な点、あるいは、錯誤と思われる箇所についての問合せを主眼として行う。照会は原則として1回とする。照会への回答は書面で行う。場合によっては質問事項に関連して原稿に手を加えることができる。この場合、変更箇所と変更理由を明示しなければならない。回答期限は3カ月以内で、これを経過した場合は、取り下げたものとみなす。

(5) 不採録と決定した原稿は、不採録理由を付して著者に返却する。

(6) 投稿論文およびテクニカルノートは、次の場合に不採録とする。

(a) 既発表または周知のものから容易に類推される内容である。

(b) 内容が不十分で、読者の参考にならないと考えられる。

(c) 本質的な誤り、または、客観的に認知できない記述がある。

(d) 文章表現や構成において問題があり、軽微の修正で改善の見込みがない。あるいは、内容に比べて著しく冗長である。

(e) 本学会と関連性が薄い分野の論文である。

(7) 著者は投稿原稿を取り下げることができる。この場合、書面で論文誌編集委員会に申し出なければならない

第1表 論文誌の投稿記事種目

| 種目               | 内容                                                   | 刷上標準<br>ページ数 | 和文記事原稿枚数<br>ワープロ等 | 手書き | 英文記事<br>語数 |
|------------------|------------------------------------------------------|--------------|-------------------|-----|------------|
| (1) 論文           | 学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。 | 8            | 24                | 48  | 6,000      |
| (2) テクニカル<br>ノート | 新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。                            | 2            | 6                 | 12  | 1,500      |
| (3) 誌上討論         | 掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。                       | 1            | 3                 | 6   | 750        |

\* 原稿枚数、語数はタイトルや図表などすべてを含めた数値

ワープロ等原稿用紙 (24字×26行=624字) 手書き原稿用紙 (24字×13行=312字)

第2表 論文誌別刷価格表 (単位:円)

| ページ数 | 1      | 2      | 3      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8       | 9       |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 100  | 11,000 | 22,000 | 33,000 | 44,000 | 55,000 | 66,000 | 86,000 | 106,000 | 136,000 |
| 200  | 12,000 | 23,000 | 34,000 | 45,000 | 56,500 | 67,500 | 87,500 | 107,500 | 137,500 |
| 300  | 13,000 | 24,000 | 35,000 | 46,000 | 58,000 | 69,000 | 89,500 | 109,500 | 139,500 |
| 400  | 14,000 | 25,000 | 36,000 | 47,000 | 59,500 | 70,500 | 91,500 | 111,500 | 141,500 |
| 500  | 15,000 | 26,000 | 37,000 | 48,000 | 61,000 | 72,000 | 93,500 | 113,500 | 143,500 |

お、8ページを越えるときは100部の場合で、1ページにつき30,000円加算する。カラーの場合は1ページ当たり通常の4ページと換算する。

ない。

#### 5 掲載決定通知、別刷等

- 1) 採録原稿の掲載号が決まると、掲載決定通知を投稿者に送付する。
- 2) 誤植防止のために著者に校正刷りを送る。校正の際の原稿及び図面の変更は認めない。
- 3) 著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。事情により有料となることがある。
- 4) 掲載された論文、テクニカルノートの著者は、それらの別刷を100部以上買いとらなければならない。価格は第2表による。著者校正の際、同封の別刷申込書に必要事項を記入の上、校正結果とともに返送しなければならない。

#### 6 論文投稿形式

##### 6.1 投稿に使用する原稿用紙

原稿をワープロ等で作成する場合は、A4判またはレターサイズ(8.5"×11")の用紙を使用し、片面打ちとする。字詰は以下にすること。

和文: 24字×26行

英文: ダブルスペースで、1ページあたり約250語。大見出しは2行どりとする。

和文原稿を手書きする場合は、本会所定の原稿用紙を本会事務局で購入すること。なお、原稿枚数、語数と刷りページ数の関係については第1表を参照のこと。

##### 6.2 投稿原稿の構成

原稿は、次の①～⑪をこの順に整える。各々別用紙に、ず用紙を改めて書くこと。(①～⑪でオリジナル原稿とする)

標 題: 和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくても良い。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。

著者名・所属: 氏名、所属を和英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和文はなくても良い。共著の場合、著者と所属機関の対応を明示すること。また、会員・非会員の別(会員の場合は会員番号も)、著者連絡先(住所、電話番号(内線)、eメール等。複数著者の場合は連絡担当者に\*印を付すこと)、論文作成手段(ワープロの場合は機種名、パソコンの場合は機種およびソフト名、LaTeX等)を用紙の下部に明記すること。

和文アブストラクト: 600字(テクニカルノートは300字)以内。英文論文の場合は不要。

④ 英文アブストラクト: 200語(テクニカルノートは100語)以内。

⑤ 本 文:

⑥ 謝 辞: 必要ならば付けても良いが、できるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。

⑦ 参考文献: 研究内容に関連して文献を引用する場合、関連する本文中の箇所の右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する(2.6.4参照)。引用文献は、既に刊行物に掲載されているか、あるいは掲載が確定している文献に限る。

⑧ 付録: 長い数式の誘導の過程や、実験装置などの詳細な説明を本文に挿入すると論旨が不明瞭になる場合、付録を設けてよい。

⑨ 図 (2.6.4参照)

⑩ 表 (2.6.4参照)

⑪ キーワード・チェックリスト: 情報処理学会所定のもの(8～9頁をコピーして利用のこと)。

##### 2.6.3 投稿原稿の提出形式

原稿を投稿する際は、次の(A)～(C)を必要とする。不足がある場合は受け付けない。

(A) オリジナル原稿一式 (①～⑪)

(B) (A)のコピー3部(ただし査読用として、②著者名・所属、⑥謝辞および⑪キーワード・チェックリストを除いたもの)。

(C) ①標題、②著者名・所属、③和文アブストラクト、④英文アブストラクト、⑥謝辞、⑪キーワード・チェックリストのそれぞれのコピー1部。

##### 2.6.4 原稿執筆上の一般的注意事項

(1) 専門用語については、簡単な用語解説を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にする。次の例を参照にされたい。

4) 山田太郎: 偏微分方程式の数値解法, 情報処理, Vol.1, No.1, pp.6～10 (1960)。

5) Feldman, J. and Gries, D.: Translator Writing System, Comm. ACM, Vol.11, No.2, pp.77-113 (1968)。

7) 大山一夫: 電子計算機, p.300, 情報出版, 東京 (1991)。

8) Wilkes, M.V. : Time Sharing Computer Systems, p.200, McDonald, New York (1990).

- (3) 図(モノクロ写真およびカラー写真を含む)および表には、図1および表1のような通し番号と名称を和文と英文でつける。ただし、英文論文の場合は和文はなくても良い。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるよう配慮する。

図・表は著者の作成したものを、そのまま印刷するので、下記要領により、黒インキでトレースするか、あるいは同等の画質があるものを提出すること。①刷上り寸法の2倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。②図・表を入れる場所は、原稿用紙の欄外に明記すること。③表はできる限り簡潔に作成し、長い表は、途中を省略するか、あるいは、直接製版できる原稿にする。④図・表原本には、裏面に鉛筆で著者名と図番を記入すること。

図・表のでき上り寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

| 寸法 (mm)    | ワープロ行数<br>(24×26行) | 手書き原稿相当枚数 |
|------------|--------------------|-----------|
| A. 50×34   | 6行                 | 0.5枚      |
| B. 67×50   | 13行                | 1枚        |
| C. 100×67  | 26行                | 2枚        |
| D. 134×100 | 39行                | 3.5枚      |

- (4) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき、下つきの別、×(かける)とX(エックス)の別など。
- (5) 句読点は“.”および“,”を用い、それぞれ1画(1字分)を用いる。
- (6) 数式は印刷に便利よう注意する。文中に式を挿入する場合には $a/b$ 、 $\exp(t/r)$ のような記法を用いる。独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,”または“.”を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。
- (7) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。
- (8) 原稿中にあとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にし、かつ挿入する箇所を、∨または∧(朱書)で示す。
- (9) 脚注は、☆、☆☆、☆☆☆などの記号で示し、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。
- (10) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に～を朱書し、イタリック体(斜体)使用の場合はその文字の下に朱書でーと指定する。

### 3. 機関誌に掲載された論文等の著作権

#### 3.1 著作権の帰属

- (1) 機関誌に掲載された論文等(以下論文等という)の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議のうえ措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。
- ・依頼論文等であって、その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので、著作権の本学会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
  - ・特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

#### 3.2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著作者人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製を行うことができる。ただしこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本学会理事会において審議し、適当と認めたものについて要望に応ずることができる。ただしこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告のうえ、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

#### 3.3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当たっては他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一、執筆案内が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

Information for Authors Who Submit Papers  
to "Transactions"

The goal of the monthly "Transactions of Information Processing Society of Japan" is to publish a wide range of scientific and technical papers, not available elsewhere, that deal with all aspects of information processing, computer and information science/engineering and related areas. Only papers not published previously will be accepted.

"Transactions" provides three kinds of material: full papers, technical notes, and letters to the editor. Papers should describe original research/development, theoretical or practical. Technical notes may be short papers which contain descriptions of ongoing research/development to be published later, or new technical proposals. Letters to the editor are for brief questions and answers on published papers or technical notes.

Submission of Manuscripts:

Submit four copies of your manuscript, each complete with illustrations and an abstract. Full papers should not exceed eight printed pages, or about 6000 words. Technical notes should not exceed two printed pages, or about 1500 words. Letters to the editor should not exceed 750 words.

Address manuscripts to:  
Editor of "Transactions"  
Information Processing Society of Japan  
Until mid-July 1994)  
STEC Joho Bldg. 27F  
1-24-1, Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku  
Tokyo 160, Japan

After mid-July 1994)  
Shibaura Maekawa Bldg. 7F  
3-16-20, Shibaura, Minato-ku  
Tokyo 108, Japan

Your paper should be accompanied by:

1. Illustrations, preferably originals; otherwise, use clear, good quality copies, and be prepared to send originals upon acceptance of your paper.
2. A technical biography of 150 words or less and a photograph of each author; otherwise be prepared to send these on acceptance of your paper. For biography style, see the latest issue of "Transactions."
3. The questionnaire included with this document (or a copy), filled out as completely as possible. The questionnaire is used to help select appropriate referees.
4. A separate, signed letter giving the address(es) of author(s) and indicating to whom correspondence and galley proofs are to be sent.

Manuscript Style:

Type using double spacing on one side of 21 × 30 cm (4) or 8.5 × 11 in sheets. Typical style would be about 2500 words a page. Give the title of the paper and the name(s) and affiliation(s) of author(s) on a separate sheet. In co-authored papers, be sure to clearly indicate the correspondence of

authors' names and affiliations.

Provide an informative abstract of 200 words or less (100 words or less for technical notes) at the head of the manuscript.

Place references in a separate section at the end of the paper, numbered serially and referred to within the paper by their numbers in square brackets. References must be complete and follow the style in these examples:

- (1) Yamada, T., Realization of a Processor with Virtual Tapes, Trans. IPS Japan 1, (January 1971), 1-8.
- (2) Randell, B., ed., The Origins of Digital Computers, 2nd ed., Springer-Verlag, Berlin, 1975.
- (3) Wang, W. I. and Mendez, E., Computers as Personalities, Appl. Phys. Lett. 58 (June 1991), 826-829.

Clearly indicate in the right margin of the manuscript where to insert illustrations and tables.

Illustrations and Tables:

Illustrations should be sharp, noise-free, and of good contrast.

Drawings should be in India ink on drafting cloth, paper, or board.  
Use 21 × 30 cm (A4) sheets, if possible; otherwise, use 8.5 × 11 in sheets.

Graphs should show only coordinate axes or, at the most, major grid lines.

Lettering should be large enough to be legible after reduction of up to 25%.

Photographs should be glossy prints, of good contrast and gradation and reasonable size.

Number and caption each original, including the author's name in soft pencil on the back.

Referee process:

Each submitted paper is subjected to a referee process. The final decision on publication rests with the Editor, and is based on referees' comments. The author(s) is completely responsible for the accuracy of the contents of the paper, however.

Notes:

- The manuscripts will not be returned.
- The copyright for all published papers belongs to the Information Processing Society of Japan.

The author or author's institute is required to purchase a minimum of 100 reprints. Prices are as follows:

(unit : ¥1, 000)

| Page Copies | 1  | 2  | 3  | 4  | 5    | 6    | 7    | 8     | 9     |
|-------------|----|----|----|----|------|------|------|-------|-------|
| 100         | 11 | 22 | 33 | 44 | 55   | 66   | 86   | 106   | 136   |
| 200         | 12 | 23 | 34 | 45 | 56.5 | 67.5 | 87.5 | 107.5 | 137.5 |
| 300         | 13 | 24 | 35 | 46 | 58   | 69   | 89.5 | 109.5 | 139.5 |
| 400         | 14 | 25 | 36 | 47 | 59.5 | 70.5 | 91.5 | 111.5 | 141.5 |
| 500         | 15 | 26 | 37 | 48 | 61   | 72   | 93.5 | 113.5 | 143.5 |

キーワード(和文論文誌投稿用)

〔寄稿者用〕

(I) あなたが寄稿する原稿の内容に最も関係の深い項目(1つ)に◎印, 関係する項目(複数個も可)に○印を付けてください。

| 大項目               | 中項目                                                                                                                                                      | 小項目<br>( )内は該当項目のないときに分野名を記入                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 00 情報科学一般         | 一般<br>社会<br>教育                                                                                                                                           | 哲学,歴史,伝記( )<br>規格,標準化,知的所有権,社会問題( )<br>情報科学・工学の教育,カリキュラム,コンピュータリテラシ,C A I,教育工学( )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 01 基礎理論及び<br>基礎技術 | 情報数学及び<br>情報理論<br>非線形力学<br>アルゴリズム理論<br><br>オペレーションズ<br>リサーチ<br>確率・統計<br>数値計算<br><br>数値シミュレー<br>ション<br>高性能計算                                              | 形式理論,オートマトン理論,言語理論,計算可能性の理論,計算の複雑さ,グラフ理論,組合せ理論,符号理論( )<br>カオス,フラクタル( )<br>離散アルゴリズム,データ構造,並列アルゴリズム,分散アルゴリズム,確率アルゴリズム,近似アルゴリズム,計算幾何学,計算代数学,計算的学習理論,数式処理( )<br>線形・非線形計画法,動的計画法,整数計画法,ゲーム理論,待ち行列理論,ベトリネット( )<br>推定・検定,確率モデル,統計・確率計算,多変量解析,時系列解析( )<br>誤差解析,関数近似,補間,線形方程式,非線形方程式,固有値問題,数値微分,数値積分,常微分方程式,偏微分方程式,積分方程式,極値問題,特殊関数,乱数( )<br>有限要素法,差分法,境界要素法,モンテカルロ法,粒子シミュレーション,可視化( )<br>並列化,ベクトル化,性能評価( )                                                                                                          |
| 02 人工知能及び<br>認知科学 | 知識処理<br><br>人工知能システム<br><br>自然言語処理<br><br>パターン認識<br><br>生体情報処理<br><br>感性情報処理                                                                             | 探索,定理自動証明,推論方式,知識表現,知識獲得,知識ベース,非単調論理,ファジイ推論,不確実性処理,学習,理解・識別論( )<br>エキスパートシステム,エキスパートシステム作成支援ツール,ゲームプログラム,知能ロボット( )<br>機械翻訳,形態素解析,構文解析,意味解析,文生成,談話理解,文法,辞書( )<br>音声認識,話者識別,画像理解,物体認識,文字認識,リモートセンシング,図面認識( )<br>視覚,聴覚,神経モデル,サイバネティクス,ニューラルネットワーク,自己組織化,遺伝的アルゴリズム,人工生命( )<br>心理モデル,行動モデル,感情モデル( )                                                                                                                                                                                                             |
| 03 データ処理          | 音声処理<br>画像・図形処理<br><br>テキスト処理<br><br>マルチメディア処理                                                                                                           | 音声分析,音声合成( )<br>画質改善,帯域圧縮,符号化,曲面合成,トモグラフィ,3次元処理,グラフィックス,アニメーション( )<br>ワードプロセッシング,日本語入出力,文書処理,卓上出版,フォントデザイン,パターン照合アルゴリズム( )<br>( )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 04 ソフトウェア         | 基礎理論<br><br>プログラム言語及<br>び仕様記述言語<br><br>言語処理系<br><br>ツール<br><br>ウィンドウシステム<br>オペレーティング<br>システム<br>データベース・<br>情報検索<br><br>プログラミング技術<br><br>ヒューマンインタ<br>フェース | プログラム理論,オペレーティングシステム理論,データベース理論,形式的意味論,算法論理,検証理論,カテゴリ理論,属性文法,計算パラダイム,プログラム合成・変換( )<br>手続き型言語,論理型言語,関数型言語,オブジェクト指向言語,並列処理言語,システム記述言語,数式処理言語,シミュレーション言語,仕様記述言語( )<br>構文解析,コード生成,最適化,コンパイラ,インタプリタ,並列化コンパイラ( )<br>エディタ,デバッガ,ペリファイヤ,コンパイラジェネレータ,並列化支援ツール( )<br>( )<br>記憶管理,入出力管理,障害管理,通信管理,ファイル管理,ジョブ・タスク管理,自動運転管理,並列分散処理,例外処理,性能評価( )<br>データモデル,データ言語,データベース設計,質問処理,トランザクション処理,一貫性制約,ファイル構成,検索方式,分散データベース,マルチメディアデータベース,演繹データベース,オブジェクト指向データベース( )<br>データ構造,ガーベッジコレクション,ハッシング,ソーティング,サーチング,ベクトル化,並列化( )<br>( ) |

| 大 項 目      | 中 項 目        | 小 項 目<br>( ) 内は該当項目のないときに分野名を記入                                                                                                                                        |
|------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 ソフトウェア工学 | 開発技術         | 設計理論,要求分析法,仕様記述法,プログラミング方法論,プロトタイピング,部品化・再利用技術,ドメイン分析・モデリング,プログラム自動構成,仕様検証<br>( )                                                                                      |
|            | テスト・保守・管理    | プログラムのテスト・デバッグ,プログラム検証,性能評価,プログラム解析,保守運用管理,メトリクス ( )                                                                                                                   |
|            | ソフトウェアプロセス   | プロセスモデル,プロセスプログラミング,工程管理 ( )                                                                                                                                           |
|            | 開発環境         | 構成理論,分散開発環境,文書化支援,リポジトリ又はSEDB ( )                                                                                                                                      |
|            | ヒューマンファクタ    | マン・マシンインタフェース,要員教育,プロジェクト管理,プログラミング行動 ( )                                                                                                                              |
|            | ソフトウェア品質     | 品質保証,品質管理,品質メトリクス,信頼性予測 ( )                                                                                                                                            |
| 6 ハードウェア   | 基礎理論         | 組合せ回路理論,順序回路理論,論理設計理論,レイアウトアルゴリズム,ハードウェアアルゴリズム ( )                                                                                                                     |
|            | 論理回路         | 記憶回路,演算回路,制御回路,誤り検出・訂正回路,テスト容易化回路<br>( )                                                                                                                               |
|            | デバイスアーキテクチャ  | 論理デバイス,記憶デバイス,入出力デバイス,ASIC,PLD ( )<br>汎用計算機,専用計算機,高級言語マシン,スーパーコンピュータ,ワークステーション,マイクロプロセッサ,非ノイマンアーキテクチャ,並列アーキテクチャ,相互結合網,フォールトトレランス,リアルタイムシステム,DSP,ニューロコンピュータ,光コンピュータ ( ) |
|            | 周辺・端末        | 外部記憶,ディスプレイ装置,ハードコピー装置,文字読取装置,画像入出力装置,音声入出力装置 ( )                                                                                                                      |
|            | 設計技術及び設計自動化  | 方式設計,機能設計,論理設計,レイアウト設計,テスト生成,設計記述言語,論理合成 ( )                                                                                                                           |
|            | 開発環境         | 統合化ツール,設計環境,設計データベース ( )                                                                                                                                               |
|            | テスト・検証       | LSIテスト,ハードウェア設計検証,性能評価 ( )                                                                                                                                             |
| 7 ネットワーク   | 通信技術         | データ交換方式,通信方式,画像通信,トラヒック理論,ネットワークアーキテクチャ,プロトコル,プロトコル検証 ( )                                                                                                              |
|            | ネットワーク管理     | 名前管理,経路管理,障害管理 ( )                                                                                                                                                     |
|            | コンピュータネットワーク | WAN,LAN,電子会議,電子掲示板,電子メール,分散処理 ( )                                                                                                                                      |
| 8 システム     | 対話型システム      | 構成理論,方法論,CAE,CAD,CAM,CIM,CAI,管制システム,訓練システム,意志決定システム,オフィスシステム ( )                                                                                                       |
|            | グループウェア      | 協調基礎,グループワーク応用,グループワークインフラストラクチャ,分散オフィス,マルチユーザインタフェース,事例研究 ( )                                                                                                         |
|            | オンラインシステム    | 予約システム,バンキングシステム ( )                                                                                                                                                   |
|            | 制御システム       | プロセス制御,数値制御,通信制御,産業用ロボット,FA ( )                                                                                                                                        |
|            | システム評価       | 評価技法,評価指標,評価モデル ( )                                                                                                                                                    |
| 9 信頼性と安全性  | 信頼性          | 信頼性理論,保全性理論,信頼性評価,故障解析 ( )                                                                                                                                             |
|            | 機密保護         | 暗号理論,認証,鍵管理,鍵配送,セキュリティ ( )                                                                                                                                             |
| 0 応用       | 企業等への応用      | オフィス,行政,経営,金融,情報サービス,生産管理,計算機センタ運営,教育 ( )                                                                                                                              |
|            | 工学等への応用      | 航空・宇宙,機械,土木,建築,都市,電気・電子,計測,生物,物理,化学,原子力,輸送・交通,医学・歯学 ( )                                                                                                                |
|            | 芸術等への応用      | 音楽,絵画,商業デザイン ( )                                                                                                                                                       |
|            | その他への応用      | 自然科学,社会科学,人文科学,障害者補助 ( )                                                                                                                                               |
| 1 その他 ( )  |              |                                                                                                                                                                        |

I) キーワード表にとらわれず、寄稿内容を表わすキーワードを書いてください。

- (1) (2) (3)  
(4) (5)

988年7月改訂  
994年3月改訂

情報処理学会 原稿チェックリスト (太枠内著者記入)

|               |                                                                |       |       |       |       |       |           |
|---------------|----------------------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 受付番号          |                                                                | 希望掲載欄 |       | 査読者   |       |       |           |
| 和文<br>標題      |                                                                |       |       |       |       |       | 原稿        |
| 英文<br>標題      |                                                                |       |       |       |       |       | 枚 図       |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 枚 表       |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 枚 アブストラクト |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 枚         |
| 項目            | 検 討 内 容 ( 適当であると認められれば○印、そうでないとき×印、<br>投稿は著者の欄に自分の判定結果を記入すること) |       |       |       |       |       | 著者        |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 査読結果      |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 第1回       |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 第2回       |
|               |                                                                |       |       |       |       |       | 第3回       |
| 標題<br>抄録<br>等 | 掲載欄は著者の指定通りでよいか                                                |       |       |       |       |       |           |
|               | 第3者(著者以外の人)が目を通しているか                                           |       |       |       |       |       | (事務局)     |
|               | 和文標題は内容を適切に表しているか                                              |       |       |       |       |       |           |
|               | 英文標題はないようを適切に表現し、英語としても適切か                                     |       |       |       |       |       |           |
|               | アブストラクトは主旨を適切に表現し、英文も適切か                                       |       |       |       |       |       |           |
| 本文            | 在来研究との関連、研究の動機、ねらい等が明確に説明されているか                                |       |       |       |       |       |           |
|               | 既発表の論文等との間に重複はないか                                              |       |       |       |       |       |           |
|               | 章、節のたて方、全体の構成等は適切か                                             |       |       |       |       |       |           |
|               | 説明に冗長な点、逆に簡単すぎる点はないか                                           |       |       |       |       |       |           |
|               | 説明に飛躍した点はないか仮定等の説明は十分か                                         |       |       |       |       |       |           |
|               | 記号・略号等は周知のものか用語は適切か                                            |       |       |       |       |       |           |
|               | 図・表の説明は適当か(本文中および各図のキャプション)                                    |       |       |       |       |       |           |
|               | 科学技術論文として不適当な表現や、判りにくい表現はないか                                   |       |       |       |       |       |           |
|               | 結論が明確に記されており、範囲、限界、問題点などの指摘が適切で、内容にそったものであるか                   |       |       |       |       |       |           |
| 図表            | 図表自体は十分に明解であるか、誤りはないか                                          |       |       |       |       |       |           |
|               | 十分に鮮明か                                                         |       |       |       |       |       | (事務局)     |
|               | 大きさ、縮尺の指定は適切か                                                  |       |       |       |       |       | (事務局)     |
| 文献            | 適切な文献が引用されており、その数も適切か                                          |       |       |       |       |       |           |
| 総合<br>評価      | 創意の程度(最高を5とした5段階評価)                                            |       |       |       |       |       |           |
|               | 資料価値、読者にとって有益な情報の量(最高を5とした5段階評価)                               |       |       |       |       |       |           |
|               | 興味を持つ読者の多少(非常に多い場合5、ほとんどないとき1)                                 |       |       |       |       |       |           |
|               | 原稿の取り扱い(このまま掲載=3 照会後判定=2 不採録=1)                                |       |       |       |       |       |           |
| 査読<br>歴       | 回 数                                                            | 第 1 回 |       | 第 2 回 |       | 第 3 回 |           |
|               | 依 頼                                                            | 年 月 日 | 原稿 枚  | 年 月 日 | 原稿 枚  | 年 月 日 | 原稿 枚      |
|               | 期 日                                                            | 年 月 日 | 図 枚   | 年 月 日 | 図 枚   | 年 月 日 | 図 枚       |
|               | 返 着                                                            | 年 月 日 | 表 枚   | 年 月 日 | 表 枚   | 年 月 日 | 表 枚       |
| 連絡<br>事項      | 第 1 回                                                          |       | 第 2 回 |       | 第 3 回 |       |           |
|               |                                                                |       |       |       |       |       |           |

# Questionnaire

The author is requested to mark:

(1) In Table 1, those keywords that best characterize the field to which the paper belongs. Mark a double circle on keywords that best describe the contents of your paper, and mark a single circle on keywords that relate to the contents of your paper. Also mark a triangle on keywords that you think may be related to the contents of your paper. Please use the parenthesized blanks to fill in new keywords if it is difficult to make a reasonable choice from the table.

(2) In Table 2, those items that best characterize the methods used in showing the validity of result of the paper. Use as many single circles.

Table 1: KEY WORDS

| Category                                         | Subcategory                                       | Items (Enter keywords in ( ) when necessary.)                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 00 Information Science in General                | General                                           | Philosophy, History, Biography, ( )                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                  | Society Education                                 | Standards, Standardization, Intellectual properties, Social problems, ( )<br>Information science/engineering education, Curriculum, Computer literacy, CAI, Educational engineering, ( )                                                                                           |
| 01 Fundamental Theory and Technology             | Information Mathematics and Information Theory    | Formal logic, Automata, Language theory, Theory of computation, Complexity theory, Graph theory, Combinatorics, Coding theory, ( )                                                                                                                                                 |
|                                                  | Nonlinear Mechanics                               | Chaos, Fractals, ( )                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                  | Algorithm Theory                                  | Discrete algorithm, Data structure, Parallel algorithm, Distributed algorithm, Probabilistic algorithm, Approximation algorithm, Computational geometric, Computational algebra, Computational learning theory, Symbolic processing, ( )                                           |
|                                                  | Operations Research                               | Linear/Nonlinear programming, Dynamic programming, Integer programming, Game theory, Queueing theory, Petri-net, ( )                                                                                                                                                               |
|                                                  | Probability and Statistics                        | Estimation/testing, Probability model, Computation of statistics/probability, Multivariate analysis, Time series analysis, ( )                                                                                                                                                     |
|                                                  | Numerical Analysis                                | Error analysis, Function evaluation, Interpolation, Linear equations, Nonlinear equations, Eigenvalue problem, Numerical differentiation, Numerical integration, Differential equations, Partial differential equations, Integral equations, Special function, Random numbers, ( ) |
|                                                  | Numerical Simulation                              | Finite element method, Difference method, Boundary element method, Monte Carlo method, Particle simulation, Visualization, ( )                                                                                                                                                     |
| 02 Artificial Intelligence and Cognitive Science | High-Performance Computing                        | Parallelization, Vectorization, Performance evaluation, ( )                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                  | Knowledge Processing                              | Search, Automatic theorem proving, Inference methods, Knowledge representation, Knowledge acquisition, Knowledge base, Non-monotonic logic, Fuzzy interference, Uncertainty processing, Learning, Understanding/ Identification theory, ( )                                        |
|                                                  | Artificial Intelligence System                    | Expert system, Expert system development tools, Game program, Intelligent robot, ( )                                                                                                                                                                                               |
|                                                  | Natural Language Processing                       | Machine translation, Morphological analysis, Syntax analysis, Semantic analysis, Sentence generation, Discourse understanding, Grammar, Dictionary, ( )                                                                                                                            |
|                                                  | Pattern Recognition Processing                    | Speech recognition, Speaker recognition, Image understanding, Object recognition, Character recognition, Remote sensing, Drawing recognition, ( )                                                                                                                                  |
|                                                  | Biological Information                            | Vision, Auditory sense, Neural model, Cybernetics, Neural network, Self organization, Hereditary algorithm, Artificial life, ( )                                                                                                                                                   |
|                                                  | Sensuous Information Processing                   | Psychological model, Behavior model, Mental model, ( )                                                                                                                                                                                                                             |
| 03 Data Processing                               | Speech Processing                                 | Speech analysis, Speech synthesis, ( )                                                                                                                                                                                                                                             |
|                                                  | Image Synthesis/ Processing                       | Image improvement, Bandwidth compression, Encoding, Surface synthesis, Tomography, 3D processing, Graphics, Animation, ( )                                                                                                                                                         |
|                                                  | Text Processing                                   | Word Processing, Japanese language input/output, Document processing, Desk top publishing, Font design, Pattern matching algorithm, ( )                                                                                                                                            |
|                                                  | Multimedia Processing                             | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 04 Software                                      | Fundamental Theory                                | Theory of programs, Operating system theory, Database theory, Formal semantics, Programming methodology, Program verification, Category theory, Attribute grammar, Computational paradigm, Program synthesis/ transformation, ( )                                                  |
|                                                  | Programming Languages and Specification Languages | Procedural languages, Logic programming languages, Functional languages, Object-oriented languages, Concurrent languages, System descriptional languages, Formula manipulation languages, Simulation languages, Specification languages, ( )                                       |
|                                                  | Language Processor                                | Syntax analysis, Code Generation, Optimization, Compiler, Interpreter, Parallel compiler, ( )                                                                                                                                                                                      |
|                                                  | Tool                                              | Editor, Debugger, Verifier, Compiler generator, Parallelization aid tools, ( )                                                                                                                                                                                                     |
|                                                  | Window system                                     | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                  | Operating System                                  | Memory management, Input/Output management, Failure/Recovery management, Communication management, File management, Job/Task management, Automatic/Unattended operation, Parallel distributed processing, Exception processing, Performance evaluation, ( )                        |
|                                                  | Database/Information Retrieval                    | Data model, Data languages, Database design, Query processing, Transaction processing, Integrity constraint, File organization, Access method, Distributed database, Multimedia database, Deductive database, Object-oriented database, ( )                                        |
|                                                  | Programming Technique                             | Data structures, Garbage collection, Hashing, Sorting, Searching, Vectorization, Parallelization, ( )                                                                                                                                                                              |
|                                                  | Human Interface                                   | ( )                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                         |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 05 Software Engineering | Development Technique                   | Design theory, Requirement analysis, Specification methodology, Programming methodology, Prototyping, Software parts/Reuse technique, Domain analysis/Modeling, Automatic program generation, Specification verification, ( )                                                             |
|                         | Test and Maintenance                    | Program testing and debugging, Program verification, Performance evaluation, Program analysis, Maintenance/Production management, Metrics, ( )                                                                                                                                            |
|                         | Software Process                        | Process model, Process programming, Process management, ( )                                                                                                                                                                                                                               |
|                         | Development Environment                 | Architecture, Distributed development environment, Text processing aids, Repository/SEDB, ( )                                                                                                                                                                                             |
|                         | Human Factors                           | Man machine interface, Worker education, Project management, Programming behavior, ( )                                                                                                                                                                                                    |
|                         | Software Quality                        | Quality management, Quality guarantee, Quality metrics, Reliability estimation, ( )                                                                                                                                                                                                       |
| 06 Hardware             | Fundamental Theory                      | Combinatorial circuit theory, Sequential circuit theory, Logic design theory, Layout algorithm, Hardware algorithm, ( )                                                                                                                                                                   |
|                         | Logic Circuit                           | Memory circuit, Arithmetic circuit, Control circuit, Error detection/correction circuit, Testability circuit, ( )                                                                                                                                                                         |
|                         | Device                                  | Logic device, Memory device, Input/Output device, ASIC, PLD, ( )                                                                                                                                                                                                                          |
|                         | Architecture                            | General purpose computer, Special purpose computer, High-level language machine, Super computer, Workstation, Micro-processor, Non von neuman architecture, Parallel architecture, Interconnection network, Fault tolerance, Real-time system, DSP, Neuro-computer, Optical computer, ( ) |
|                         | Peripheral and Terminal                 | External memory, Display, Hardcopy device, OCR, Image input/output device, Speech input/output device, ( )                                                                                                                                                                                |
|                         | Design Technology and Design Automation | Architecture design, Functional design, Logic design, Layout design, Test generation, Design description language, Logic composition, ( )                                                                                                                                                 |
|                         | Development Environment                 | Integration tools, Design environment, Design database, ( )                                                                                                                                                                                                                               |
|                         | Test/Verification                       | LSI test, Hardware design verification, Performance evaluation, ( )                                                                                                                                                                                                                       |
| 07 Network              | Communication Technology                | Data switching method, Communication method, Image communication, Traffic theory, Network architecture, Protocol, Protocol verification, ( )                                                                                                                                              |
|                         | Network Management                      | Name management, Path management, Failure/Recovery management, ( )                                                                                                                                                                                                                        |
|                         | Computer Network                        | WAN, LAN, Electronic conference, Electronic bulletin board, Electronic mail, Distributed processing, ( )                                                                                                                                                                                  |
| 08 System               | Interactive System                      | System architecture, Methodology, CAE, CAD, CAM, CIM, CAI, Control system, Tutor system, Decision system, Office system, ( )                                                                                                                                                              |
|                         | Groupware                               | Fundamental groupware, Group work application, Group work infrastructure, Distributed office, Multi-user interface, Case study, ( )                                                                                                                                                       |
|                         | Online System                           | Reservation system, Banking system, ( )                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                         | Control System                          | Process control, Numerical control, Communication control, Industrial robot, FA, ( )                                                                                                                                                                                                      |
|                         | System Performance                      | Evaluation technique, Evaluation criteria, Evaluation model, ( )                                                                                                                                                                                                                          |
|                         | Application in Industry                 | Office, Government, Management, Finance, Information service, Production control, Computer center management, Education, ( )                                                                                                                                                              |
| 10 Application          | Application in Engineering              | Aviation/Space, Mechanical, Civil, Architecture, City/Urban planning, Electrical/Electronic, Instrumentation, Biology, Physics, Chemistry, Nuclear, Transportation/Traffic, Medical/Dentistry, ( )                                                                                        |
|                         | Application in Art                      | Music, Graphic, Industrial design, ( )                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                         | Application in Other Areas              | Natural science, ( ), Social science, ( ), Cultural science, ( )                                                                                                                                                                                                                          |
| 11 Others               |                                         | Aid for the handicapped, ( )                                                                                                                                                                                                                                                              |

When appropriate keywords that describe the contents of your paper are not found, or if there are any keywords more suitable, write them below.

- (1)  
(2)  
(3)

- (4)  
(5)

Table 2: METHODS AND TECHNIQUES

M1 Mathematical and/or theoretical proofs

M2 Preparation and execution of programs, or simulation thereof

M3 Implementation and analysis of existing systems and posed requirements

M6 Others

Specify:

## 定期刊行物の省略記法

(ISO 4, ISO 833による)

| 誌 名                                                                | 省 略 記 法                          |
|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| ACLS Newsletter                                                    | ACLS Newsl.                      |
| ACM Transactions on Database Systems                               | ACM Trans.Database Syst.         |
| ACM Transactions on Mathematical Software                          | ACM Trans.Math. Softw.           |
| ACM Transactions on Programming Languages and Systems              | ACM Trans.Prog.Lang.Syst.        |
| Acta Informatica                                                   | Acta Inf.                        |
| AEDS Journal                                                       | AEDS J.                          |
| AEDS Monitor                                                       | AEDS Monit.                      |
| ALGOL Bulletin                                                     | ALGOL Bull.                      |
| American Journal of Computational Linguistics                      | Am.J.Comput.Linguist.            |
| American Scientist                                                 | Am.Sci.                          |
| Annals                                                             | Ann.                             |
| The Annals of the American Academy of Political and Social Science | Annals AAPSS.                    |
| Applied Mathematics and Computation                                | Appl.Math.Comput.                |
| Artificial Intelligence                                            | Artif.Intell.                    |
| Association for Linguistic Computing-Bulletin                      | Assoc.Lit.Linguist.Comput.Bull.  |
| The Australian Computer Journal                                    | Aust.Comput.J.                   |
| Bell Systems Technical Journal                                     | Bell Syst.Tech.J.                |
| bit                                                                | bit                              |
| Communication of the ACM                                           | Comm.ACM                         |
| Computer                                                           | Computer                         |
| Computer Aided Design                                              | Comput.Aided Des.                |
| Computer Bulletin                                                  | Comput.Bull.                     |
| Computer Design                                                    | Comput. Des.                     |
| Computer Educator                                                  | Comput.Educ.                     |
| Computer Graphics and Art                                          | Comput.Gr.Art                    |
| Computer Vision Graphics and Image Processing                      | Comput.Gr.Image Process.         |
| Computer Graphics Newsletter                                       | Comput.Gr.Newsl.                 |
| Computer Journal                                                   | Comput.J.                        |
| Computer Languages                                                 | Computer Lang.                   |
| Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering              | Comput.Methods in Appl.Mech.Eng. |
| Computers and Biomedical Research                                  | Comput.Biomed.Res.               |
| Computers & Graphics                                               | Comput.Gr.                       |
| Computers and Humanities                                           | Comput.Hum.                      |
| Computing                                                          | Computing                        |
| Computing Newsletter                                               | Comput.Newsl.                    |
| Computing Surveys                                                  | Comput.Surv.                     |
| Datamation                                                         | Datamation                       |
| Education Technology                                               | Educ.Tech.                       |
| Engineering and Instrumentation                                    | Eng.Instrum.                     |
| IBM Journal of Research and Development                            | IBM J.Res.Dev.                   |
| IBM Systems Journal                                                | IBM Syst.J.                      |
| IEEE Spectrum                                                      | IEEE Spectrum                    |
| IEEE Transactions on Computers                                     | IEEE on Trans.Comput.            |
| IEEE Transactions on Software Engineering                          | IEEE Trans.Softw.Eng.            |
| Industrial Engineering                                             | Ind. Eng.                        |
| Information and Control                                            | Inf.Control                      |
| Information Processing and Management                              | Inf.Process.Manage.              |
| Information Processing Letters                                     | Inf.Process.Lett.                |
| Information Science                                                | Inf.Sci                          |

| 誌 名                                                        | 略 記 法                  |
|------------------------------------------------------------|------------------------|
| The Information Scientist                                  | The Inf.Sci.           |
| Information Systems                                        | Inf.Syst.              |
| Instrumentation Technology                                 | Instrum.Technol.       |
| International Journal of Bio-Medical Computing             | Int.J.Bio-Med.Comput.  |
| International Journal of Computer and Information Sciences | Int.J.Comput.Inf.Sci.  |
| International Journal of Computer and Mathematics          | Int.J.Comput.Math.     |
| International Journal of General Systems                   | Int.J.General Syst.    |
| International Journal of Man-Machine Studies               | Int.J.Man-Mach.Stud.   |
| Journal of the ACM                                         | J.ACM                  |
| Journal of the American Society for Information Sciences   | J.Am.Soc.Inf.Sci.      |
| Journal of the American Statistical Association            | J.Am.Stat.Assoc.       |
| Journal of Chemical Information & Computer Sciences        | J.Chem.Inf.Comput.Sci. |
| Journal of Clinical Computing                              | J.Clin. Comput.        |
| Journal of Computational Physics                           | J.Comput.Phys.         |
| Journal of Computer and System Sciences                    | J.Comput.Syst.Sci.     |
| Journal of Cybernetics and Information Sciences            | J.Cybern.Inf.Sci.      |
| Journal of the Franklin Institute                          | J.Franklin Inst.       |
| Journal of Symbolic Logic                                  | J.Symbolic Logic       |
| Journal of Systems Management                              | J.Syst.Manage.         |
| Law and Computer Technology                                | Law Comput.Technol.    |
| Management Information Systems Quarterly                   | Manage.Inf.Syst.Q      |
| Management Science                                         | Manage.Sci.            |
| Mathematical Programming                                   | Math.Program.          |
| Mini-Micro Systems                                         | Mini-Micro Syst.       |
| Nachrichtentechnische Zeitschrift                          | Nachrichtentech.Z.     |
| Operations Research                                        | Oper.Res.              |
| Pattern Recognition                                        | Pattern Recogn.        |
| Popular Computing                                          | Pop.Comput.            |
| Proceedings of the IEEE                                    | Proc.IEEE              |
| Proceedings of the SID                                     | Proc.SID               |
| Science                                                    | Science                |
| Scientific American                                        | Sci.Am.                |
| SIAM Journal on Applied Mathematics                        | SIAM J.Appl.Math.      |
| SIAM Journal on Computing                                  | SIAM J.Comput.         |
| SIAM Journal on Control                                    | SIAM J.Control         |
| SIAM Journal on Mathematical Analysis                      | SIAM J.Math.Anal.      |
| SIAM Journal on Numerical Analysis                         | SIAM J.Num.Anal        |
| SIAM Review                                                | SIAM Rev.              |
| SID Journal                                                | SID J.                 |
| Simulation                                                 | Simulation             |
| Software-Practice & Experience                             | Softw.Pract.Exper.     |
| Soviet Cybernetics Review                                  | Sov.Cybern.Rev.        |
| Theoretical Computer Science                               | Theor.Comput.Sci.      |

注) 一般的に会議論文集は次のように略記する。 Proc.\* \*th会議名 開催年 (例) Proc. 8th IJCAI 1990

| 情 報 処 理 学 会 関 連 の 英 文 表 記 お よ び 略 記                                       |                                       |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 誌 名                                                                       | 省 略 記 法                               |
| 情報処理学会                                                                    | IPS Japan                             |
| (Information Processing Society of Japan)                                 |                                       |
| 学会誌「情報処理」                                                                 | J.IPS Japan                           |
| (Journal of Information Processing Society of Japan)                      |                                       |
| 論文誌                                                                       | Trans.IPSJapan                        |
| (Transactions of Information Processing Society of Japan)                 |                                       |
| 旧欧文誌                                                                      | J.Inf.Process.                        |
| (Journal of Information Processing)                                       |                                       |
| 旧英文誌                                                                      | 略記しない                                 |
| (Information Processing in Japan)                                         |                                       |
| 全国大会                                                                      |                                       |
| (The**th Annual Convention IPS Japan)                                     |                                       |
| 全国大会論文集                                                                   | Proc.**th Annual Convention IPS Japan |
| (Proceedings of the **th Annual Convention IPS Japan)                     |                                       |
| 功績賞                                                                       |                                       |
| (IPSJ Contribution Award)                                                 |                                       |
| 論文賞                                                                       |                                       |
| (IPSJ Best Paper Award)                                                   |                                       |
| 研究賞，山下記念賞                                                                 |                                       |
| (IPSJ SIG Research Award)                                                 |                                       |
| 奨励賞                                                                       |                                       |
| (IPSJ Convention Award)                                                   |                                       |
| 情報処理学会 3 0 年のあゆみ－活動の軌跡と技術展望                                               |                                       |
| (IPSJ and Its 30years-Review of Its Activities and Technical Perspective) |                                       |